

Title	高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績 (2010年4月～2011年3月)
Author(s)	
Citation	京都大学高等教育研究 (2011), 17: 207-258
Issue Date	2011-11-30
URL	http://hdl.handle.net/2433/152453
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

日 誌 ・ 業 績

高等教育研究開発推進センター日誌

(2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

年 月 日	記 事
4. 1	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 22 年度第 1 回）
4. 2	京都大学初年次特別セミナー 「キャリアを考えよう－キャリアデザイン・社会人基礎力・社会性」 講師：溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）
4. 9	関西地区 FD 連絡協議会第 4 回幹事会
4. 7	教授 田地野 彰 IATEFL 国際英語教育学会に参加・発表。教材開発研究及び授業研究と文献収集のためイギリスへ海外出張（4.22 帰国）
4.21	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 22 年度第 1 回）
4.23	京都大学初年次特別セミナー 「キャリアを考えよう－キャリアデザイン・社会人基礎力・社会性」 講師：溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）
4.25	関西地区 FD 連絡協議会 第 3 回総会 場所：百周年時計台記念館 開会挨拶：米谷 淳（神戸大学大学教育推進機構） 議事：1. 平成 21 年度活動報告について 2. 平成 22 年度活動方針について 3. 平成 21 年度決算について 4. 平成 22 年度予算について 5. その他 ポスターセッション「FD 活動の報告会」 01 同志社大学 勝山 貴之（教育開発センター） 『同志社大学における F D 活動について－シラバス整備を中心に－』 02 大阪府立大学 星野 聡孝（高等教育開発センター） 『学生と教員との架け橋となる活動を目指して －授業アンケートと情報発信を例に－』 03 大阪大学 山成 数明・服部 憲児（大学教育実践センター） 『大阪大学大学教育実践センターの多様な F D 活動の取り組み』

- 04 立命館大学 井上 史子・金剛 理恵・沖 裕貴・安岡 高志
（教育開発推進機構）
『新任教員を対象とした実践的FDプログラムの開発と評価』
- 05 関西大学 池田 勝彦・三浦 真琴（教育開発支援センター）
『三者協働型アクティブ・ラーニングの展開－学生の「考動力」育成をめざして－』
『新任教員を対象とした実践的FDプログラムの開発と評価』
- 06 大阪市立大学 矢野 裕俊（大学教育研究センター）
『全学FDと部局FDの連携』
- 07 神戸大学 米谷 淳（大学教育推進機構）
『全学共通教育「ピアレビューウィーク」と全学FD実質化』
- 08 龍谷大学・龍谷大学短期大学部
松本和一郎（大学教育開発センター）・野澤 信孝（教学企画部）
『各学部が主催する「FD報告会」の実施について』
- 09 京都大学 大塚 雄作
（高等教育研究開発推進センター・FD研究検討委員会WG2）
『京都大学のFD2009』
- 10 藍野大学 平山 朋子（医療保健学部 理学療法学科）
『理学療法教育におけるOSCEリフレクション法導入のインパクト－学生の主体的学びと自生的FDへの展開－』
- 11 京都ノートルダム女子大学
須川 いずみ・小山 哲春（人間文化学部英語英文学科）
『キャリアデータベースを利用した社会人基礎力養成プログラム』
- 12 夙川学院短期大学 森田 健宏・小林 伸雄（FD委員会）
『ピアスーパービジョン制度による教育実践研究紀要の運用と短期大学における導入期のFD推進の可能性』
- 13 京都外国語大学 村上 正行（マルチメディア教育研究センター）
『京都外国語大学における授業評価アンケート・FDの取り組み』
- 14 京都産業大学 森 洋（教育支援研究開発センター）
『京都産業大学におけるFD活動の新しい特徴と変化』
- 15 京都橘大学 横田 冬彦（文学部）
『オリターが養成する学習コミュニティの形成』
- 16 滋賀県立大学 倉茂 好匡（教育実践支援室）
『滋賀県立大学における全学規模での授業改善活動』
- 17 大阪成蹊大学 福永 栄一（現代経営情報学部）
『授業評価アンケートを中心に進める組織的FD
－きっかけは、携帯電話の利用－
－学生とのコミュニケーション、手作り教育をキーワードとして－』

活動事例報告：

1. 「初任者研修共同実施に向けて」
半澤 礼之（京都大学高等教育研究開発推進センター）

2. 「理学療法教育における自生的 FD 実践」
平山 朋子（藍野大学医療保健学部理学療法学科）
 3. 「携帯電話を使った出欠確認から FD メディア研究への展開」
福永 栄一（大阪成蹊大学現代経営学部）
- 閉会挨拶：田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター）
情報交換会
- 5.12 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 22 年度第 2 回）
FD 研究検討委員会
- 5.14 平成 22 年度 第 1 回新工学教育プログラム実施専門委員会
- 5.17 国立ソウル大学校教授学習開発センター（Centre for Teaching and Learning of Seoul National University）のセンター訪問・研究会
- 5.26 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 22 年度第 2 回）
- 5.26 特定准教授 及川 恵 Association for Psychological Science 22nd Annual Convention
に参加・情報収集のためアメリカへ海外出張（6.1 帰国）
- 5.28 平成 22 年度第 1 回 MOST 講習会
MOST、KEEP Toolkit の概要紹介
事例紹介－Connexions、MERLOT
操作説明－スナップショット、リソース（HTML 利用）、W-COS
実際の操作（参加者の操作体験、質疑応答）
- 6.2／6.8 サイエンスコミュニケータープロジェクト：オリエンテーション
場所：吉田南 1 号館
内容
1. 本プロジェクトの概要、目的について（教育推進部 教務企画課 清水克哉）
2. スケジュールと事務手続きについて（教育推進部 教務企画課 田平亜美子）
3. 自己紹介
4. 参加に当たっての心構え、留意点
（高等教育研究開発推進センター 特定准教授 及川 恵）
5. 質疑応答
- 6.9 平成 22 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）継続
「ポスト近代社会における＜新しい能力＞概念とその形成・評価に関する研究」
研究代表者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター 教授
研究分担者：石井 英真 神戸松蔭女子学院大学人間科学部 講師

- | | |
|------|--|
| | 伊藤実歩子 甲南女子大学人間科学部 准教授 |
| | 遠藤 貴広 福井大学教育地域科学部 講師 |
| | 杉原 真晃 山形大学基盤教育院 准教授 |
| | 樋口 太郎 大阪経済大学経済学部 講師 |
| | 樋口とみ子 京都教育大学教育学部 講師 |
| | 松下 良平 金沢大学人間社会研究域学校教育系 教授 |
| 6.9 | 平成 22 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）継続
「粒子ボリウムレンダリング技術を使った遠隔協調研究支援環境の構築」
研究代表者：小山田耕二 高等教育研究開発推進センター 教授
坂本 尚久 高等教育研究開発推進センター 特定助教
伊達 進 大阪大学サイバーメディアセンター 准教授
江原 康生 大阪大学情報基盤推進本部 講師 |
| 6.9 | 平成 22 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）新規
「総合研究大学における英語学術論文作成技能の育成に向けた全学共通教育のコース設計」
研究代表者：田地野 彰 高等教育研究開発推進センター 教授
研究分担者：飯島 優雅 獨協大学経済学部 准教授
高橋 幸 高等教育研究開発推進機構 准教授
金丸 敏幸 大学院人間・環境学研究科 助教 |
| 6.9 | 平成 22 年度科学研究費補助金・基盤研究（C）継続
「肩甲帯に着目した上肢運動のバイオメカニクス」
研究代表者：小田 伸午 高等教育研究開発推進センター 教授 |
| 6.9 | 平成 22 年度科学研究費補助金・基盤研究（C）継続
「江戸末期に日本に伝わった中国伝統演劇に関する基礎的研究」
研究代表者：赤松 紀彦 高等教育研究開発推進センター 教授 |
| 6.16 | 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 22 年度第 3 回） |
| 6.17 | 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 22 年度第 3 回） |
| 6.20 | 准教授 田中真介 日本応用心理学会第 77 回大会のシンポジウムに関する基礎的な研究
文献資料収集のためチェコ共和国及びオーストリアへ海外出張（7.1 帰国） |
| 6.22 | 平成 22 年度科学研究費補助金・若手研究（B）継続
「ICT を活用した大学教員のための授業改善システムに関する研究」
研究代表者：酒井 博之 高等教育研究開発推進センター 特定准教授 |

- 6.22 平成 22 年度科学研究費補助金・若手研究（B）継続
「認知行動的介入による気晴らしの接近的活用に関する臨床健康心理学的研究」
研究代表者：及川 恵 高等教育研究開発推進センター 特定准教授
- 6.27 特定助教 田川 千尋 ICED 学会参加及び情報収集のためスペインへ海外出張（6.30 帰国）（当時パリ大学西ナンテール博士後期課程）
- 6.30 FD 研究検討委員会・第 1 回勉強会
場所：吉田南 1 号館 1 階会議室
プログラム
1. はじめに
田中 每実教授（高等教育研究開発推進センター長）
2. 話題提供 「新任教員研修」
松下 佳代教授、田口 真奈准教授（高等教育研究開発推進センター）
3. 話題提供 「京都大学学生学習調査」に向けて
溝上 慎一准教授（高等教育研究開発推進センター）
4. 討論（各部局より）
- 7.6 高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 22 年度第 1 回）
- 7.8 サイエンスコミュニケータープロジェクト事前研修
研修会開会の挨拶：高等教育研究開発推進センター長 田中 每実
サイエンスコミュニケーター事前アンケート
ミニ講義 1 「学校での立ち振る舞い：ビジネスマナーについて」
教育推進部教務企画課 清水 克哉
ミニ講義 2 「子どもたちの学びを促すには」
高等教育研究開発推進センター 特定准教授 及川 恵
高等教育研究開発推進センター 特定助教 半澤 礼之
模擬授業のグループ分けと自己紹介、模擬授業にあたっての説明
模擬授業
グループ討論
全体討論
全体のまとめと研修会開会の挨拶
高等教育研究開発推進センター 特定准教授 及川 恵
教育推進部 教務企画課 清水 克哉
- 7.9 准教授 田中 真介 乳幼児期の運動・認知・言語・社会性の発達と総合的な保育システムに関する調査のためオーストラリアへ海外出張（7.24 帰国）
- 7.11 特定助教 石川 裕之 ソウル女子看護大学・農協大学・漢陽女子大学にて専門大学の現状に関する面談のため大韓民国へ海外出張（7.15 帰国）

- 7.14 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 22 年度第 4 回)
- 7.15 京都大学文学部 FD 研修会講演 第 5 回 FD 研修会「プレFDの現在」
講演：田口 真奈 (高等教育研究開発推進センター 准教授)
- 7.16 平成 22 年度第 2 回 MOST 講習会
MOST、KEEP Toolkit の概要紹介
事例紹介－組織的 FD の取り組み－授業改善の取り組み
操作説明－スナップショット、コミュニティ
実際の操作 (参加者の操作体験、質疑応答)
- 7.20 FD 研究検討委員会公開授業・検討会
授業担当：及川 恵 (高等教育研究開発推進センター 特定准教授)
授業科目：共通科目 (A 群)「心理的ストレスと適応」
- 7.21 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 22 年度第 4 回)
- 7.21 准教授 Stewart Timothy William 執筆予定の参考書やテキストについて情報収集のためカナダへ海外出張 (8.21 帰国)
- 7.21 「相互研修型FD共同利用拠点」平成 22 年度運営委員会
8. 2 大学生研究フォーラム 2010
共催：高等教育研究開発推進センター・財団法人電通育英会
挨拶：田中 毎実 (京都大学高等教育研究開発推進センター長)
松本 宏 (財団法人電通育英会理事長)
講演：「企業人材教育の現在－大学には何ができるのか？」
中原 淳 (東京大学大学教育総合センター 准教授)
基調講演：「キャリアを切り開く能力とキャリア観」
高橋 俊介 (慶応義塾大学 キャリアソースラボラトリー 上席所員)
- 事例報告・パネルディスカッション
「正課教育とキャリア教育を総合して学生の学びと成長を考える」
司会：半澤 礼之 (京都大学高等教育研究開発推進センター 特定助教)
趣旨説明と継承問題：溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授)
- 事例報告 (教授＋学生)
「学生研修という考え方－学生調査によるアセスメントと
大学生キャリアセミナー」
溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授)
「学芸カフェテリアによる学修・キャリア支援」
番田 清美 (東京学芸大学 学生キャリア支援センター 特任准教授)
「実践キャリア教育をふまえた工科系学生のための教育・授業改善」

- 梶原 昭博 (北九州市立大学 国際環境工学部 教授/学部長)
- パネルディスカッション
- 司会: 溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授)
- パネリスト: 高橋 俊介 慶応義塾大学 キャリアソースラボラトリー上席所員
- 渡辺三枝子 立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科特任教授
- 加藤 敏明 立命館大学 共通教育推進機構キャリア教育センター 教授
- 閉会挨拶: 溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授
- 8.4 FD 研究検討委員会
- 大学院生のための教育実践講座 2010 -大学でどう教えるか-
- 場所: 京都大学百周年時計台記念館
- 開会挨拶 西村 周三 (京都大学 教育・学生担当理事)
- 趣旨とプログラム説明 大塚 雄作 (高等教育研究開発推進センター 教授)
- 【BASIC】**
- セッション1 グループ討論1: (自己紹介)「大学授業をどう思うか」
- セッション2 ミニ講義1:「大学授業の現在」
- 田口 真奈 高等教育研究開発推進センター 准教授
- セッション3 ランチと自由討論
- セッション4 グループ討論2 「大学授業で教師に求められるもの」
- セッション5 ボディワーク 「他者とのつながり・自分とのつながり」
- 村川 治彦 (京都文教大学 教授)
- セッション6 ミニ講義2 「大学授業の課題」
- 及川 恵 (高等教育研究開発推進センター 特定准教授)
- グループ討論整理
- セッション7 全体討論 「大学で教えるために」
- セッション8 ミニ講義3「大学で教えるために」
- 田中 每実 (高等教育研究開発推進センター長)
- 【ADVANCED】**
- セッション1 全体討論1 (自己紹介)「教える側からみた大学授業」
- セッション2 ランチと自由討論
- セッション3 模擬公開授業・検討会
- セッション4 グループ討論1
- セッション5 全体討論2
- セッション6 グループ討論2
- セッション7 全体討論3
- 閉会式 挨拶・修了証授与 西村 周三 (京都大学 教育・学生担当理事)
- 閉会式終了後 情報交換会
- 8.5 文学研究科プレ FD プロジェクト平成 22 年度前期公開研修会
- 場所: 京都大学百周年記念時計台 国際交流ホールⅡおよびⅢ
- 開会式 挨拶: 田中 每実 (FD 研究検討委員会 委員長)
- 司会: 田口 真奈 (高等教育研究開発推進センター 准教授)

自己紹介

参加者の自己紹介と公開講座を担当しての感想

ビデオ視聴

講義ビデオの視聴

個人ワークと発表

ワークシートとリフレクションを用いた講義の振り返り

半澤 礼之（高等教育研究開発推進センター 特定助教）

学生の声の紹介

受講生に対するインタビュー結果の紹介

小城 拓理・三宅 岳史（文学研究科教務補佐員）

半澤 礼之（高等教育研究開発推進センター 特定助教）

ミニ講義

松下 佳代（高等教育研究開発推進センター 教授）

ディスカッションテーマ発表とグループ分け

テーマ1：「授業におけるメディアの活用」

テーマ2：「学生の多様性にどのように対応するか」

テーマ3：「学生を学びに動機づけるには」

テーマ4：「学びを促す教材づくり」

グループディスカッション

テーマ1：田口 真奈（高等教育研究開発推進センター 准教授）

テーマ2：半澤 礼之（高等教育研究開発推進センター 特定助教）

テーマ3：及川 恵（高等教育研究開発推進センター 教授）

テーマ4：松下 佳代（高等教育研究開発推進センター 教授）

全体ディスカッション & まとめ

司会：半澤 礼之（高等教育研究開発推進センター 特定助教）

閉会挨拶：赤松 明彦（文学研究科長 教授）

修了証授与：田中 每実（FD 研究検討委員会 委員長）

情報交換会

8.5 関西地区FD 連絡協議会 FD 共同実施 WG 研究会

場所：京都大学百周年時計台記念館 会議室

8.13 准教授 Dalsky David Jerome ヘルシンキ大学にて共同研究打合せ及び資料収集のためフィンランドへ海外出張（8.20 帰国）

9.2 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成22年度第5回）

9.3 京都大学新任教員教育セミナー

場所：京都大学百周年時計台記念館

開会挨拶 西村 周三（教育・学生担当理事）

趣旨説明 田中 每実（高等教育研究開発推進センター長）

セッション1

ミニ講義1:「現代の大学教育の動向と京都大学のポリシー」

西村 周三 (教育・学生担当理事)

セッション2

ミニ講義2:「京都大学の教育サポート・リソース」

カウンセリングセンター センター長 青木 健次

教育推進部 共通教育推進課専門員 中澤 和紀

図書館機構 (附属図書館) 参考調査掛長 北川 昌子

情報環境機構 (学術情報メディアセンター) 教授 中村 裕一

セッション3

ミニ講義3:「全学共通教育・各部局の教育的取組」

全学共通教育 少人数教育部会部会長 野田 公夫

文学部 文学研究科教務補佐員 図師 宣忠

国際交流センター センター長 森 純一

セッション4 グループ討論:「京大でどう教えるか」

1. 大講義をどう行うか?

人間・環境学研究科 教授 小田 伸午

(進行) 高等教育研究開発推進センター 特定助教 石川 裕之

2. レポート作成をどう支援するか?

附属図書館 准教授 古賀 崇

(進行) 高等教育研究開発推進センター 教授 松下 佳代

3. 学生を授業にどう巻きこむか?

医学研究科 講師 森本 剛

(進行) 高等教育研究開発推進センター 特定准教授 及川 恵

4. 学生の学力の低下・多様化にどう対応するか?

農学研究科 教授 宮川 恒

(進行) 高等教育研究開発推進センター 特定助教 半澤 礼之

5. 教育の国際化にどう対応するか?

経営管理研究部 教授 小林 潔司

(進行) 高等教育研究開発推進センター 准教授 田口 真奈

6. 自学自習・授業外学習をどう促すか?

工学研究科 教授 銚井 修一

(進行) 高等教育研究開発推進センター 特定研究員 藤本 夕衣

7. 評価をどう行うか?

高等教育研究開発推進センター 教授 大塚 雄作

(進行) 高等教育研究開発推進センター 特定准教授 酒井 博之

セッション5 ラップアップ

閉会挨拶 田中 每実 (高等教育研究開発推進センター長)

- 9.4 特定助教 坂本 尚久 シュツットガルト大学にて Thomas Ertl 先生の研究室にて情報収集、研究打合せのためドイツへ。EUROSIM2010 国際会議にて発表、情報収集の

- ためチェコ共和国へ海外出張（9.10 帰国）
- 9.7 「相互研修型FD 共同利用拠点」平成22年度諮問委員会
- 9.7 公開シンポジウム FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」
場所：京都大学芝蘭会館
- ＜第1部＞
- 開会挨拶 松本 紘（京都大学 総長）
- 趣旨説明 大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）
- 基調報告「相互研修型FD 共同利用拠点の仕事」
- 基調報告者 田中 每実
（京都大学高等教育研究開発推進センター センター長）
- ＜第2部＞
- パネル報告
- 「高等教育政策の中のFD」
- 天野 郁夫（東京大学 名誉教授）
- 「FD を日米の異同から考える」
- 館 昭
（桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科 教授）
- 「どのような大学教員を育てるのか、そのために何をすべきか」
- 羽田 貴史（東北大学高等教育開発推進センター 教授）
- 「FD を語り直すことを試みる」
- 寺崎 昌男（立教学院 本部調査役）
- 「相互研修型FD 共同利用拠点-基調報告への応答-」
- 絹川 正吉（新潟大学 理事）
- 「FD 関係参考資料」
- 小松親次郎（文部科学省大臣官房 審議官）
- ＜第3部＞
- パネルディスカッション
- パネリスト：
- 天野 郁夫（東京大学 名誉教授）
- 館 昭（桜美林大学大学院アドミニストレーション研究科 教授）
- 羽田 貴史（東北大学高等教育開発推進センター 教授）
- 寺崎 昌男（立教大学本部調査役）
- 絹川 正吉（新潟大学 理事）
- 小松親次郎（文部科学省大臣官房 審議官）
- 田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター センター長）
- 司会：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）
- 9.7～8 若手FD 研究者ネットワーク（JFDN Jr.）第3回研究会
場所：京都大学吉田南1号館・京都大学 芝蘭会館

9月7日

セッション1

本会合の趣旨について

司会：田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

ネットワーク代表挨拶：村上 正行（京都外国語大学 マルチメディア
教育研究センター 准教授）

参加者による自己紹介

「FD との関わりと研究のバックグラウンド」

活動報告

田口 真奈・半澤 礼之（京都大学高等教育研究開発推進センター）

セッション2

公開シンポジウム

「FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う」

情報交換会

9月8日

セッション3

ワークショップ

テーマ「所属組織・担当業務の現状と課題」

司会：村上 正行

（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター）

- ・説明
- ・グループディスカッション
- ・グループ発表

セッション4

ワークショップ

テーマ「公開シンポジウムの振り返り」

司会：村上 正行

（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター）

- ・説明
- ・グループディスカッション
- ・グループ発表

セッション5

ランチミーティング

テーマ「FD と関わる：展望と課題」

司会：田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター）

セッション6

ワークショップ

テーマ「学問領域別教育の質保証について考える」

司会：杉原 真晃（山形大学高等教育研究企画センター）

- ・説明
- ・ミニレクチャー

田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター）

・グループディスカッション

・グループ発表

セッション6

今後の活動計画について

杉原 真晃（山形大学高等教育研究企画センター）

閉会の挨拶

村上 正行（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター）

振り返りシート記入

9.8 FD 代表者ネットワーク（JFDN）平成22年度会合

場所：京都大学 芝蘭会館

趣旨説明：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

プログラム1

I. FD ネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と展望 I

1. 細川 敏幸（北海道大学 高等教育機能開発総合センター教授）

「北海道地区 FD・SD 推進協議会の活動」

2. 後藤 尚人

（岩手大学 大学教育開発推進センター 副センター長／教授）

「いわて高等教育コンソーシアムにおける FD 活動 2010」

3. 関内 隆

（東北大学 高等教育開発推進センター 副センター長／教授）

「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」

4. 小田 隆治（山形大学 高等教育研究企画センター 教授）

「FD ネットワーク “つばさ” の現在」

5. 青野 透（金沢大学 大学教育開発・支援センター 教授）

「大学コンソーシアム石川 FD・SD 活動の展開」

6. 飯塚 潤一

（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

障害者支援研究部長／教授）

「生涯学生支援について：障害者高等教育拠点として」

7. 松田 直正

（千葉大学大学院 看護学研究科附属看護実践研究指導センター

特任助教）

「看護学教育における FD ネットワークおよび

看護学教育研究共同利用拠点の現状と展望」

8. 川島 啓二（国立教育政策研究所 高等教育研究部 総括研究官）

「大学教育改革を進める知識・技能、人、理念：

日本高等教育開発協会（JAED）が目指すもの」

9. 坪川 武弘（福井工業高等専門学校 教授）

「F レックスでの連携した FD 活動の推進」

10. 夏目 達也 (名古屋大学 高等教育研究センター 教授)

「『FD・SD 教育改善支援拠点』のめざすもの」

昼食・フリーディスカッション

プログラム 2

II. FD ネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と展望 II

11. 原 清治

(佛教大学 教育学部 教授)

／学生支援・戦略的大学連携 GP 推進室 室長)

「地域内大学連携による FD の包括研究と共同プログラム開発・組織的運営システムの確立」

12. 加藤 智美

(岐阜大学 医学部 医学教育開発研究センター 講師)

「医学教育共同利用拠点としての現状と展望」

13. 井上 史子 (立命館大学 教育開発推進機構 講師)

「全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF) の活動展開と今後の課題」

14. 山田 剛史

(島根大学 教育開発センター 副センター長／准教授)

「山陰地域における大学間連携の取り組み」

15. 佐藤 浩章 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授)

「全国の高等教育機関の組織力向上のための教職員能力開発拠点：四国地区大学教職員能力ネットワーク (SPOD) との連携授業」

16. 田中 岳 (九州大学 教育改革企画支援室 准教授)

「かたらしてえ Q-Links 2010」

ディスカッション

コメント：高橋 浩太郎

(文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室 学務係長)

司会：大塚 雄作

(京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授)

- 9.23 教授 赤松 紀彦 中国語 CALL 教材のためのコンテンツ収集及び中国伝統演劇 (秦腔・昆曲) に関する資料収集のため中国へ海外出張 (10.3 帰国)

- 9.27 関西地区 FD 連絡協議会授業評価研究 SG 平成 22 年度第 1 回会合
場所：京都大学吉田南 1 号館

- 9.28 FD に関する実践状況とその評価のあり方に関する調査のため、ソウル大学・梨花女子大学・高麗大学・ソウル女子大学 教授学習センター訪問
参加者：大塚 雄作 教授、及川 恵 特定准教授、石川 裕之 特定助教 (10.1 帰国)

- 9.28 准教授 溝上 慎一 6th International Conference THE DIALOGICAL SELF へ参加のためギリシャへ海外出張 (10.4 帰国)

- 10.5 FD 研究検討委員会公開授業・検討会
授業担当：須田 淳（工学研究科 准教授）
授業科目：工学部専門科目（2 回生）「半導体工学」
- 10.6 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 22 年度第 6 回）
- 10.18 2010 ISSOTL Conference 参加・研究発表
参加者：松下 佳代教授、酒井 博之特定准教授、及川 恵特定准教授、
田川 千尋特定助教（10.25 帰国）
- 10.20 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 22 年度第 5 回）
- 10.22 第 2 回新工学教育プログラム実施専門委員会
- 10.27 IEEE Visualization 2010 に参加・情報収集ためアメリカへ海外出張（10.31 帰国）
参加者：小山田 耕二教授、坂本 尚久特定助教
- 10.28 特定助教 石川 裕之 ソウル大学中央図書館、ソウル大学法学図書館、ソウル大学
医学図書館にて植民地大学に関する資料収集のため大韓民国へ海外出張
（10.31 帰国）
- 11.10 高等教育研究開発推進センター運営会議（平成 22 年度第 7 回）
- 11.11 サイエンスコミュニケータープロジェクト：事後研修会
場所：吉田南 1 号館
プロジェクト実施概要報告
教育推進部 教務企画課 清水 克哉
プロジェクトに参加した若手研究者からの報告・感想
若手研究者による自由発言など
司会：高等教育研究開発推進センター 特定助教 半澤 礼之
修了証明書授与
高等教育研究開発推進センター センター長 田中 每実
高等教育研究開発推進センター教員からのコメント
高等教育研究開発推進センター 特定准教授 及川 恵
高等教育研究開発推進センター 教授 大塚 雄作
高等教育研究開発推進センター センター長 田中 每実
- 11.13 SC10 に参加、展示、情報収集のためアメリカに海外出張（11.20 帰国）
参加者：小山田 耕二教授、坂本 尚久特定教授
- 11.17 特定助教 田川 千尋 パリ西大学ナンテールにて教育・課程研究センター高等教育
研究所研究会出席・発表、マルヌ・ラ・ヴァレ大学・パリ・ドーフィヌ大学・高等教

- 育省にてインタビュー及び資料収集のためフランスに海外出張 (11.29)
京都大学文学部 FD 研修会講演
- 11.18 「大学設置基準の改正－正課教育とキャリア教育の架橋－」
講演：溝上 慎一（高等教育研究開発推進センター 准教授）
- 11.20 教授 赤松 紀彦外 蘇州大学にて、外国語の先進的教育法をめぐっての意見交換並びに中国語 CALL 教材のためのコンテンツ収集のため中国へ海外出張 (11.24 帰国)
12. 2 FD 研究検討委員会・第2回勉強会
場所：吉田南1号館共201室
12. 3 工学部主催「第6回工学部教育シンポジウム」
場所：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール
開会挨拶 工学部長 小森 悟
話題提供：「対話を根幹とする自学自習の創出」
大塚 雄作（高等教育研究開発推進センター 特定准教授）
教育改善に向けて
私の授業—アンケート結果を受けて—
水戸 義忠 教授（地球工学科）
永田 雅人 教授（物理工学科）
田野 哲 教授（電気電子工学科）

委員長報告：田中 利幸（新工学部新工学教育プログラム実施専門委員会委員長）
ディスカッション
12. 6 国大協近畿地区支部研修専門分野研修 「最近の学生の実態と教育的支援」
講演：溝上 慎一（高等教育研究開発推進センター准教授）
12. 8 FD 研究検討委員会・第3回勉強会
場所：吉田南1号館共201室
- 12.10 平成22年度 情報教育研究集会
場所：京都テルサ
- 基調講演
「電子図書館とデジタル教科書」
長尾 真（国立国会図書館長）

パネル討論「デジタル教科書の可能性」
モデレータ：田口 真奈（京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授）
パネリスト：長尾 真（国立国会図書館長）

飯吉 透 (マサチューセッツ工科大学 シニア・ストラテジスト)
植村 八潮 (東京電機大学出版局 局長)
千葉 徹 (シャープ株式会社
ネットワークサービス事業推進本部長)
牧野 二郎 (弁護士法人牧野総合法律事務所 弁護士)

企画セッション (1) ICT を活用した組織的 FD

オーガナイザ: 田中 每実 (京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授)
田口 真奈 (京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授)
司 会: 村上 正行 (京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター)

パネル討論におけるパネリスト

森 祥寛 (金沢大学 総合メディア基盤センター FD・ICT 教育推進室) [話題提供]
南木 睦彦 (流通科学大学 高等教育センター 教授) [話題提供]
酒井 博之 (京都大学 高等教育研究開発推進センター 特定准教授) [話題提供]
田中 每実 (京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授) [指定討論]

12.15 高等教育研究開発推進センター運営会議 (平成 22 年度第 8 回)

12.15 平成 22 年度 京都大学専門職員研修

「現代の学生の実態とその関わり方ー京都大学の取り組みを全国のなかで位置づけるー」

講師: 溝上 慎一 (高等教育研究開発推進センター 准教授)

2011. 1. 8

第 6 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント ワークショップ

「思考し表現する学生を育てるー書くことをどう指導し評価するか? IIIー」

場所: 京都大学吉田南 1 号館

開会挨拶: 田中 每実 (関西地区 FD 連絡協議会 代表幹事校代表)

講演

「学生の潜在能力と対話型教育ー卒論・ゼミ指導の 9 年間の実践から」

北野 収 (獨協大学外国語学部 教授)

事例紹介

事例紹介「“十字モデル”を使った試み」

須長 一幸 (関西大学教育推進部 助教)

齊尾 恭子 (関西大学教育推進部教育開発支援センター 研究員)

ガイダンス・休憩・移動

グループワーク

休憩・移動

全体討論

司会: 安岡 高志 (立命館大学教育開発推進機構 教授)

1.12	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成22年度第9回）
1.19	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成22年度第6回）
1.21	准教授 Dalsky David Jerome テキサスサンアントニオ大学にて資料収集のため、ヘンリーBゴンザレスコンベンションセンターにてSPSP学会参加のためアメリカへ海外出張（2.1 帰国）
1.21～28	センター研究会合宿 講師：田中 智志氏（東京大学大学院教育学研究科 教授）招聘
2.16	高等教育研究開発推進センター運営会議（平成22年度第10回） 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成22年度第7回）
2.20	国際シンポジウム「高校／大学から仕事へのトランジションー自己形成の場としての学校教育の到来ー」 場所：京都大学百周年時計台記念館・百周年記念ホール 開会挨拶 田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター長） 梶田 勲一（環太平洋大学 学長） 司会／趣旨説明 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授） 特別講演 ジェームズ・コテ（James Côté） （ウェスタンオンタリオ大学 教授、カナダ） 「後期近代におけるアイデンティティ資本 ーソフトスキルと教育から仕事へのトランジション」 パネルディスカッション 乾 彰夫（首都大学東京人文・社会系／東京都立大学人文学部 教授） 「後期近代における〈学校から仕事への移行〉とアイデンティティ ーエイジェンシー・ストラクチャー・コミュニティ」 浅野 智彦（東京学芸大学教育学部 准教授） 「多元化する若者の自己とアイデンティティ資本」 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授） 「青年期発達としてのアイデンティティと資本としてのアイデンティティ」
2.23	センター研究会 報告者：James Côté氏（ウェスタンオンタリオ大学 教授）
2.24	文学研究科プレFDプロジェクト平成22年度後期公開研修会 場所：京都大学吉田南1号館 共201・206 開会挨拶 田中 每実（FD研究検討委員会 委員長） 司会：田川 千尋（高等教育研究開発推進センター 特定助教）

	<p>自己紹介</p> <p>参加者の自己紹介と公開講座を担当しての感想</p> <p>ビデオ視聴</p> <p>講義ビデオの視聴</p> <p>個人ワークと発表</p> <p>ワークシートとリフレクションを用いた講義の振り返り</p> <p>田口 真奈 (高等教育研究開発推進センター 准教授)</p> <p>学生の声の紹介</p> <p>受講生に対するインタビュー結果の紹介</p> <p>小城 拓理・溝上 宏美・杉山 卓史 (文学研究科 教務補佐員)</p> <p>半澤 礼之 (高等教育研究開発推進センター 特定助教)</p> <p>ミニ講義</p> <p>松下 佳代 (高等教育研究開発推進センター 教授)</p> <p>ディスカッションテーマ発表とグループ分け</p> <p>テーマ1:「学生の多様性にどのように対応するか」</p> <p>テーマ2:「学生を学びに動機づけるには」</p> <p>テーマ3:「学びを促す教材づくり」</p> <p>グループディスカッション</p> <p>テーマ1:半澤 礼之 (高等教育研究開発推進センター 特定助教)</p> <p>テーマ2:田口 真奈 (高等教育研究開発推進センター 准教授)</p> <p>テーマ3:松下 佳代 (高等教育研究開発推進センター 教授)</p> <p>全体ディスカッション & まとめ</p> <p>司会:田口 真奈 (高等教育研究開発推進センター 特定助教)</p> <p>閉会挨拶:佐藤 昭裕 (文学研究科長 教授)</p> <p>修了証授与:田中 毎実 (FD 研究検討委員会 委員長)</p> <p>情報交換会</p>
3. 1	<p>京都大学 K.U. PROFILE FD セミナー “Designing and Managing English-Taught Courses” 事例報告 “My teaching experience in a KUINEP class”</p> <p>報告:溝上 慎一 (高等教育研究開発推進センター 准教授)</p>
3. 1	<p>Pacific Vis 国際会議に参加・情報収集、ポスター発表のため香港へ海外出張 (3.4 帰国)</p> <p>参加者:小山田 耕二教授、坂本 尚久特定教授</p>
3. 2	<p>教授 松下 佳代 ヨデボリ大学教育学部にて Marton 教授訪問及びインタビュー、ストックホルム大学教育学部 PRIM グループ訪問及び資料収集のためスウェーデンへ。ヘルシンキ大学図書館にて資料収集・ユヴァスキュラ大附属小・ユヴァスキュラ大教育センター小学校・センター訪問、現職教育研修の参観のためフィンランドへ海外出張 (3.10 帰国)</p>
3. 4	<p>高等教育研究開発推進センター協議員会 (平成 22 年度第 2 回)</p>

- 3.5 京都大学ジャーヴィス研究会主催出版記念シンポジウム
「変動する現代社会のなかで「教えること」とは－高等教育・生涯学習をめぐる日英研究者の対話」
パネルディスカッション報告
「アクティブラーニングの観点から高等教育における新しい「教えること」の展開を見る」
報告：溝上 慎一（高等教育研究開発推進センター 准教授）
- 3.11 MOST 講習会
場所：京都大学吉田南1号館1共23教室
趣旨説明、MOST・KEEP Toolkitの概要説明
酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター 特定准教授）
MOST 操作説明
参加者によるスナップショットの作成
- 3.13 教授 吉田 純 国際比較として合衆国における戦争の記憶の公共的表現方法等を調査のためアメリカへ海外出張（3.18 帰国）
- 3.15 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成22年度第8回）
- 3.15 准教授 Stewart Timothy William TESOL2011 参加のためアメリカへ海外出張（3.21 帰国）
- 3.16 第7回関西地区FD連絡協議会主催イベント
授業評価ワークショップⅡ「授業評価の効率的実施と効果的活用」
場所：京都大学吉田南総合館
開会挨拶：松本和一郎（関西FD研究WG幹事校・龍谷大学教授）
ミニレクチャー1：授業評価の最近の動向
米谷 淳（関西FD研究WG・授業評価研究SG主査・神戸大学大学教育推進機構教授）
ミニレクチャー2：授業評価におけるメディア活用
福永 栄一（関西FD研究WG・FDメディア研究SG主査・大阪成蹊大学准教授）
ガイダンス・休憩・移動
グループワーク1
中間質疑
グループワーク2
全体討論
閉会挨拶：米谷 淳（関西FD研究WG・授業評価研究SG主査・神戸大学大学教育推進機構教授）

3.17 ~ 18

第17回大学教育研究フォーラム

場所：京都大学吉田南1号館・総合館、百周年時計台記念館

プログラム：

開会の挨拶：松本 紘（京都大学 総長）

シンポジウム「単位制度から見る教授学習・カリキュラム」

報告者：森 利枝（大学評価・学位授与機構学位審査研究部 准教授）

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

森本 剛（京都大学大学院医学研究科・

医学教育推進センター 講師）

伊藤 浩行（広島大学大学院工学研究院 准教授）

澤登 秀雄（創価大学教務部 課長）

司 会：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

小講演1

村上 正行（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター 准教授）

南部 広孝（京都大学大学院教育学研究科 准教授）

丸山 恭司（広島大学大学院教育学研究科 准教授）

山中 淑江（立教大学学生相談所 教授）

小講演2

秦 敬治（愛媛大学経営情報分析室 准教授）

遠藤 隆久（熊本学園大学商学部 教授）

鈴木真理子（滋賀大学教育学部 教授）

鳥居 朋子（立命館大学教育開発推進機構 教授）

特別企画ラウンドテーブル2件

「新たなSD論の展開に向けて－理論と実践の狭間で－」

企 画：山本 淳司（京都大学教育推進部）

話題提供：上田 理子（札幌市立大学事務局）

清水 栄子（阿南工業高等専門学校）

秦 敬治（愛媛大学教育・学生支援機構）

秋谷 恵子（愛媛大学経営企画部）

松永 倫紀（京都大学教育推進部）

蜂屋 大八（山形大学学務・入試企画室）

渡部 秀明（東京工業大学総務部）

指定討論：各務 正（順天堂大学総務局）

司 会：山本 淳司（京都大学教育推進部）

ブレFDの展開と今後の課題－我が国における先端事例を通じて－

企 画：田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター）

話題提供：栗原 正仁（北海道大学大学院情報科学研究科）

宮本陽一郎（筑波大学大学院人文社会科学研究科）

近田 政博 (名古屋大学高等教育研究センター・
大学院教育発達科学研究科)

出口 康夫 (京都大学大学院文学研究科)

田林 千尋 (京都大学大学院文学研究科)

指定討論: 吉良 直 (日本教育大学院大学学校教育研究科)

司 会: 田口 真奈 (京都大学高等教育研究開発推進センター)

ラウンドテーブル 6 件

個人研究発表 10 部会 60 件

教育評価研究部会 (1) / カリキュラム研究部会 (1) / 授業研究部会 (1) (2) (3) (4)
(5) (6) (7) / FD・授業公開研究部会 (1) (2) (3) (4) (5) / e-Learning・遠隔教
育研究部会 (1) (2) / 大学生・大学生活研究部会 (1) (2) (3)

高等教育研究開発推進センター組織

(2010年4月1日～2011年3月31日)

高等教育研究開発推進センター協議員：

田中 毎実	センター長		
松下 佳代	センター教授	大塚 雄作	センター教授
吉田 純	センター教授	小田 伸午	センター教授
赤松 紀彦	センター教授	田地野 彰	センター教授
小山田耕二	センター教授		
山本 行男	高等教育研究開発推進機構長(～9月)、センター教授		
淡路 敏之	高等教育研究開発推進機構長(10月～)		
有賀 哲也	高等教育研究開発推進機構、副機構長(10月～)		
鈴木 晶子	高等教育研究開発推進機構、副機構長(10月～)		
多賀 茂	高等教育研究開発推進機構、副機構長(11月～)		
富田 恭彦	人間・環境学研究科長		
八尾 誠	高等教育研究開発推進機構、副機構長(～9月)		
吉川 研一	大学院理学研究科長		
伊藤 邦武	大学院文学研究科教授		
辻本 雅史	大学院教育学研究科長		
山本 豊	大学院法学研究科教授		
塩地 洋	大学院経済学研究科教授		
篠原 隆志	大学院医学研究科教授(6月～)		
平出 敦	大学院医学研究科教授(～5月)		
伊藤 信行	大学院薬学研究科教授		
伊藤紳三郎	大学院工学研究科教授		
宮川 恒	大学院農学研究科教授		
中村 佳正	大学院情報学研究科長		
中島 浩	学術情報メディアセンター長		

高等教育研究開発推進センター運営委員：

田中 毎実	センター長		
松下 佳代	センター教授	大塚 雄作	センター教授
吉田 純	センター教授	小田 伸午	センター教授
山本 行男	センター教授	田地野 彰	センター教授
赤松 紀彦	センター教授	小山田 耕二	センター教授
田口 真奈	センター准教授	溝上 慎一	センター准教授
田中 真介	センター准教授	桂山 康司	センター准教授
Dalsky David Jerome	センター准教授	Stewart Timothy William	センター准教授
酒井 博之	センター特定准教授	及川 恵	センター特定准教授
石川 裕之	センター特定助教	半澤 礼之	センター特定助教
田川 千尋	センター特定助教(10月～)	坂本 尚久	センター特定助教

平成 22 年度学外研究協力者：

米谷 淳 神戸大学大学教育推進機構教授
 山内 乾史 神戸大学大学教育推進機構准教授
 吉田 雅章 和歌山大学経済学部准教授
 神藤 貴昭 立命館大学経済学部准教授
 吉田 文 早稲田大学教育学部教授
 中原 淳 東京大学大学総合教育研究センター准教授
 矢野 裕俊 大阪市立大学大学教育研究センター教授
 荒木 光彦 松江工業高等専門学校校長
 井下 理 慶應義塾大学総合政策学部教授
 藤田 哲也 法政大学文学部教授
 山田 礼子 同志社大学社会学部教授
 村上 正行 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
 鈴木真理子 滋賀大学教育学部教授
 杉原 真晃 山形大学基盤教育院准教授准教授
 山田 剛史 島根大学教育開発センター講師
 小田 隆治 山形大学地域教育文化学部教授
 絹川 正吉 新潟大学理事
 夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター教授
 本郷優紀子 桜美林大学・総合研究機構事務局長
 尾澤 重知 早稲田大学人間科学学術院准教授
 圓月 勝博 同志社大学文学部教授
 沖 裕貴 立命館大学大学教育開発・支援センター教授
 林 創 岡山大学教育学部講師
 栗田佳代子 大学評価・学位授与機構評価研究部准教授
 坂東 昌子 NPO 法人 知の人材ネットワーク・あいんしゅたいん理事長

平成 22 年度学内研究担当教員：

子安 増生 大学院教育学研究科教授
 田中 耕治 大学院教育学研究科教授
 高見 茂 大学院教育学研究科教授
 杉本 均 大学院教育学研究科教授
 楠見 孝 大学院教育学研究科教授
 大山 泰宏 大学院教育学研究科准教授
 土井 真一 大学院法学研究科教授
 出口 康夫 大学院文学研究科准教授
 永井 和 大学院文学研究科教授
 平出 敦 大学院医学研究科教授（～5月）
 宮川 恒 大学院農学研究科教授
 田中 利幸 大学院情報学研究科教授
 山本 裕 大学院情報学研究科教授
 日置 尋久 大学院人間・環境学研究科准教授
 美濃 導彦 学術情報メディアセンター教授
 喜多 一 学術情報メディアセンター教授

平成 22 年度企画協力教員：

大木	充	大学院人間・環境学研究科教授
丸橋	良雄	大学院人間・環境学研究科教授
酒井	敏	大学院人間・環境学研究科教授
西山	教行	大学院人間・環境学研究科准教授
日置	尋久	大学院人間・環境学研究科准教授
壇辻	正剛	学術情報メディアセンター教授

高等教育研究開発推進センター教員業績

（2010 年 4 月 1 日～ 2011 年 3 月 31 日）

※職名は 2010 年度現在

第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

田中 每実（教授）

1. 研究業績

【著作】

- ・田中每実「日本の FD の現在—なぜ、相互研修型 FD なのか？」「あとがき」（京都大学高等教育研究開発推進センター編『大学教育のネットワークを創る—FD の明日へ』4-21 頁、213-216 頁 東信堂 2011.3）

【論文】

- ・田中每実「エッセイ：教育現実の構成と教育哲学の構成」（教育哲学会『教育哲学研究』、101 号、156-169 頁）2010.5
- ・田中每実「『聞き書 村井実、上田薫 回顧録』を読む」（教育哲学会『教育哲学研究』、101 号、193-201 頁）2010.5
- ・田中每実「「研究と教育の一致」の理念は現実的か？」（中部大学教育研究 No.10 11-22 頁）2010.12

【その他の著作物】

- ・田中每実「はじめに」（『京都大学高等教育叢書 28—相互研修型 FD の組織化による教育改善 2007』1-9 頁、全 213 頁）2011.3
- ・田中每実「ライフサイクル研究—これまでとこれから—」（上智大学総合人間学部・学内共同研究『2009 年 成果報告書』42-70 頁、全 95 頁）2011 / 3
- ・田中每実「三つのポリシーと教育の質補償」（平成 22 年度第 33 回私立大学の教育・研究充実に関する研究会 報告書（短期大学の部）33-44 頁、全 97 頁）2010.3

【学会発表など】

- ・田中每実「「研究と教育の一致」の理念は現実的か？」（大学教育学会第 32 回大会「ラウンドテーブル」）愛媛大学 2010.5
- ・田中每実「「学問教育共同体」の現代的再編成について」／シンポジウム 1「キャリア形成における大学教育—ライフサイクルの視点から」（大学教育学会 2010 年度課題研究集会）武庫川女子大学 2010.11

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期分担）
- ③大学院教育：「高等教育論演習 I A・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期、共同）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター センター長
- ・京都大学教育研究評議会 評議員

- ・ 京都大学 FD 研究検討委員会 委員長

【社会活動】

- ・ 関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校・代表
- ・ 教育哲学会常任理事
- ・ 大学教育学会常任理事
- ・ 日本学術会議連携会員
- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金二段審査委員
- ・ 大学教育学会 2010 年度課題研究集会（武庫川女子大学）企画委員長

【講演】

- ・ 田中每実 2010.6「FD の現在」京都大学生存圏研究所
- ・ 田中每実 2010.7「多様化した学生への教育の質保証と教育支援」中部大学
- ・ 田中每実 2010.8「FD ネットワークの現在」愛知学院大学
- ・ 田中每実 2010.10「FD の現状と課題」愛知芸術大学
- ・ 田中每実 2010.11「3 つのポリシーと教育の質保証」私学研修福祉会 平成 22 年度第 33 回私立大学の教育・研究充実に関する研究会 私学会館

大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター・高等教育教授システム研究開発部門・教授）

1. 研究業績（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

【論文など】

- ・ 及川恵・大塚雄作・石川裕之 2010 京都大学工学部学生の学生生活と知識・スキル及び適応との関連性，京都大学高等教育研究，16，113-119. 京都大学高等教育研究開発推進センター
- ・ 石川裕之・大塚雄作・及川恵 2011 韓国の大学における FD の実践状況とその評価のあり方に関する調査 京都大学高等教育叢書 29『大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成 2010』，359-366. 京都大学高等教育研究開発推進センター
- ・ 大塚雄作・及川恵・石川裕之（編著）2011 『FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う』 京都大学高等教育叢書 30 京都大学高等教育研究開発推進センター
- ・ 大塚雄作 2011 FD 共同体の形成と評価の役割 ——「組織的 FD」の実質化に向けて—— 京都大学高等教育研究開発推進センター（編）・松下佳代（編集代表）『大学教育のネットワークを創る ―FD の明日へ―』，143-167. 東信堂
- ・ 大塚雄作 2011 教育 子安増生・齋木潤・友永雅己・大山泰宏（編）『心理学概論』，343-346. ナカニシヤ出版

2. 教育活動（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

【学内】

①全学共通教育

- ・『教育評価の基礎』（後期）
- ・『ライフサイクルと教育 A』（前期；松下佳代・井下理・大塚雄作）

②学部教育

- ・『教育心理尺度開発演習』（前期）

③大学院教育

- ・『高等教育開発論研究 A』（前期）
- ・『高等教育論演習 II A』（前期）

- ・『高等教育開発論研究 B』（後期）
- ・『高等教育論演習 II B』（後期）

【学外】

- ・桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻（修士課程）通信教育課程非常勤講師『高等教育研究調査法』
- ・早稲田大学教職大学院『学力調査・評価の方法と活用』（8 / 18 ~ 20）
- ・京都橘大学・大学教育推進プログラム『オリターが養成する学習コミュニティの形成』2010 年度学外評価委員

3. その他の活動（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター第 1 部門 部門長
- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会 協議員

【社会活動】

- ・日本教育心理学会常任編集委員
- ・日本教育心理学会理事
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会委員
- ・特定非営利活動法人実務能力認定機構理事
- ・最高裁判所 家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- ・ISO / TC232（人材育成と非公式教育サービス）国内審議委員会委員
- ・電通育英会奨学生選考委員
- ・財団法人短期大学基準協会評議員
- ・大学教育学会理事
- ・日本高等教育質保証学会理事
- ・ISO29990 サービス認証スキーム検討委員会主査（2011 年 3 月より）

【講演・シンポジウムなど】

- ・大塚雄作 2010. 5. 29. 大学組織研究における個の多様性への接近—— 京都大学工学部・授業／学生調査の経験から —— 第 13 回日本高等教育学会 課題研究Ⅱ 『教育改善にむけてのデータの開発：IR と学生調査』 関西国際大学
- ・及川恵・小川絢子・大塚雄作・石川裕之 2010. 8. 27. 学生生活の活動が知識・スキルや心理的適応に与える影響——卒業時学生調査に基づいて—— 日本教育心理学会第 52 回総会（早稲田大学）
- ・Oikawa, Megumi, Yusaku Otsuka, Ayako Ogawa & Hiroyuki Ishikawa 2010. 10. 20. The Relationships between Student Activity, School Results, and Psychological Adaptation. International Society for the Scholarship of Teaching and Learning Conferences 2010 in Liverpool.
- ・大塚雄作 2010. 11. 22. 実質的 FD に授業評価はどう位置づけられるのか？ 東京理科大学第 5 回 FD セミナー
- ・大塚雄作 2010. 11. 25. 授業評価をどう授業改善に活かすのか—— 新たな学問学習共同体の形成に向けて —— 大阪成蹊短期大学
- ・大塚雄作 2010. 12. 3. 対話を根幹とする自学自習の創出 —— 単位制度をどう実質化するか —— 第 6 回工学部教育シンポジウム 京都大学工学部
- ・大塚雄作 2011. 1. 7. 今、大学院教育に求められているものは何か？ —— 新たな学問学習共同体の形成に向けて —— 京都府立医科大学大学院保健看護研究科
- ・大塚雄作 2011. 2. 3. 京都大学工学部の授業アンケート連携プロジェクトの展開 関西工学教育協会第 84 回研究集会 大阪大学豊中キャンパス
- ・大塚雄作 2011. 3. 6. 授業評価 Q&A 第 16 回 FD フォーラム・第 2 分科会「授業評価の現在（いま）～授業ア

ンケートの実情と課題～」京都外国語大学

松下 佳代 (教授)

1. 研究業績 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【著書】

(編著)

- ・松下佳代 (編著) 2010.9 『〈新しい能力〉は教育を変えるか？—学力・リテラシー・コンピテンシー—』 ミネルヴァ書房
- ・京都大学高等教育研究開発推進センター (編)・松下佳代 (編集代表) 2011.3 『大学教育のネットワークを創る—FD の明日へ—』 東信堂

(執筆分担)

- ・松下佳代 2010.5 「大学生と学力・リテラシー」 山内乾史・原清治編著 『論集 日本の学力問題 (下巻：学力研究の最前線)』 日本図書センター、146–158 頁
- ・松下佳代 2010.6 「新しい評価のパラダイム—パフォーマンス評価の観点から—」 河合塾編 『初年次教育でなぜ学生が成長するのか—全国大学調査からみえてきたこと—』 東信堂、205–228 頁
- ・松下佳代 2010.9 「〈新しい能力〉概念と教育—その背景と系譜—」 松下佳代 (編著) 『〈新しい能力〉は教育を変えるか？—学力・リテラシー・コンピテンシー—』 ミネルヴァ書房、1–42 頁
- ・松下佳代 2010.9 「ナラティブと教師の能力—内側からみたフィンランド教育の問題—」 松下佳代 (編著) 『〈新しい能力〉は教育を変えるか？—学力・リテラシー・コンピテンシー—』 ミネルヴァ書房、307–312 頁
- ・松下佳代 2010.12 「解説」 ユーリア・エンゲストローム 『変革を生む研修のデザイン—仕事を教える人への活動理論—』 (松下佳代・三輪建二監訳) 鳳書房、187–202 頁
- ・松下佳代 2010.12 「コンピテンシーを中心とする能力概念の検討」 教育目標・評価学会編 『「評価の時代」を読み解く—教育目標・評価研究の課題と展望— (下巻)』 日本標準、32–41 頁
- ・松下佳代 2011.2 「『主体的な学び』の原点—学習の視座から—」 杉谷祐美子編 『リーディングス 日本の高等教育 2 大学の学び—教育内容と方法—』 玉川大学出版部、355–362 頁
- ・松下佳代 2011.3 「FD ネットワーク形成の理念と方法—相互研修型 FD と SOTL—」 京都大学高等教育研究開発推進センター (編)・松下佳代 (編集代表) 『大学教育のネットワークを創る—FD の明日へ—』 東信堂、44–67 頁

【論文】

- ・大山牧子・村上正行・田口真奈・松下佳代 2010.11 「e-Learning 語学教材を用いた学習行為の分析—学習スタイルに着目して—」 『日本教育工学論文誌』 第 34 巻第 2 号、105–114 頁
- ・田口真奈・出口康夫・赤嶺宏介・半澤礼之・松下佳代 2010.12 「未来のファカルティをどう育てるか—京都大学文学研究科プレ FD プロジェクトの試みを通じて—」 『京都大学高等教育研究』 第 16 号、91–111 頁

【その他の著作物】

(報告書)

- ・田口真奈・半澤礼之・松下佳代 2010.7 「授業デザインのリフレクションを促す大学教員向けワークシートの開発と評価」 『日本教育工学会研究報告集』 151–156 頁
- ・松下佳代 2010.12 「特別講演：大学教育の実践知を共有する—コミュニティ・ネットワーク・コモンズ—」 『京都大学高等教育研究』 第 16 号、125–145 頁
- ・松下佳代 2010.12 「PISA で教育の何が変わったか—日本の場合—」 『教育テスト研究センター CRET シンポジウム報告書』 1–10 頁 (2010 年 12 月 10 日)
- ・田口真奈・松下佳代・田川千尋 2011.3 「FL フェロー制度」 『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』 187–194 頁
- ・半澤礼之・田川千尋・田口真奈・松下佳代・田林千尋・小城拓理・溝上宏美・杉山卓史 2011.3 「文学研究科プレ FD プロジェクト」 『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』 37–59 頁

- ・松下佳代・田口真奈・半澤礼之 2011.3「新任教員教育セミナー 2010」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』113-165 頁
- ・松下佳代・田川千尋・石川裕之 2011.3「FD 連携企画ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』249-254 頁
- ・酒井博之・松下佳代・及川恵 2011.3「ISSOTL2010 参加報告」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』343-349 頁

(書評)

- ・松下佳代 2010.5「井下千以子著『大学における書く力考える力ー認知心理学の知見をもとにー』(東信堂、2008 年)」『IDE 現代の高等教育』No.520、67-68 頁
- ・松下佳代 2011.3「竹川慎哉著『批判的リテラシーの教育ーオーストラリア・アメリカにおける現実と課題ー』」『日本教育方法学会紀要』第 36 巻、151-152 頁

(翻訳)

- ・ペンティ・ハッカライネン 2010.9「フィンランドの教育制度における教師の能力形成への挑戦」(松下佳代・伊藤実歩子訳) 松下佳代編著『〈新しい能力〉は教育を変えるか?ー学力・リテラシー・コンピテンシーー』ミネルヴァ書房、281-305 頁
- ・ユーリア・エンゲストローム 2010.12『変革を生む研修のデザインー仕事を教える人への活動理論ー』(松下佳代・三輪建二監訳) 鳳書房
- ・メアリー・テラー・ヒューバー (松下佳代訳) 2011.3「高等教育におけるティーチング・コモンズの構築」京都大学高等教育研究開発推進センター (編)・松下佳代 (編集代表)『大学教育のネットワークを創るーFD の明日へー』東信堂、22-42 頁
- ・ジュニファー・メタ・ロビンソン (松下佳代訳) 2011.3「SOTL を支援する小規模な教員ネットワークの形成ーインディアナ大学ブルーミントン校の取り組みー」京都大学高等教育研究開発推進センター (編)・松下佳代 (編集代表)『大学教育のネットワークを創るーFD の明日へー』東信堂、68-84 頁

【学会発表】

- ・松下佳代 2010.8「問題提起：〈新しい能力〉とは何かー2つのコンピテンシーを中心にー」日本教育学会第 69 回大会 (「ラウンドテーブル「〈新しい能力〉は教育を変えるか?ー学力・リテラシー・コンピテンシーー」) 広島大学
- ・松下佳代 2010.10「指定討論：教育方法学における授業研究の未来ー大学授業研究の視点からー」日本教育方法学会第 46 回大会 (公開シンポジウム「日本の授業研究の特質と課題」) 国士舘大学
- ・田口真奈・半澤礼之・松下佳代 2010.7「授業デザインのリフレクションを促す大学教員向けワークシートの開発と評価」日本教育工学会研究会 (JSET10-3)、電気通信大学
- ・Matsushita, K. & Hirayama, T. 2010.10 An investigation into voluntary faculty development practice in physical therapy education: With OSCE-Reflection Method as a turning point, ISSOTL 10, Liverpool, UK
- ・松下佳代 2010.12「大学における学習の質の評価ーパフォーマンス評価を中心にー」教育目標・評価学会第 21 回大会、共愛学園前橋国際大学
- ・平山朋子・松下佳代・西村敦 2011.3「学習評価に焦点をあてた協働的 FD の組織化ー理学療法教育における OSCE-R の開発・改訂と機関間連携ー」第 17 回大学教育研究フォーラム
- ・松下佳代 2011.3「指定討論：理論と実践を行き来する実践的研究をどう行うか?」(ラウンドテーブル「理論と実践を行き来する大学教育における実践的研究」) 第 17 回大学教育研究フォーラム

2. 教育活動 (2010 年度)

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 A」(前期)、「学力・学校・社会」(後期)
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科、前・後期)、「高等教育論演習Ⅲ A・B」(教育学研究科、

前・後期)

3. その他の活動（2010年4月～2011年3月）

【学内委員】

- ・女性研究者支援センター 地域連携事業ワーキンググループ推進員
- ・FD研究検討委員会 第2WGメンバー
- ・京都大学グローバルCOEプログラム「心が活きる教育のための国際的拠点」執行委員（平成20～22年度）
- ・「たちばな賞」審査委員

【社会活動】

- ・日本教育学会理事
- ・日本教育方法学会理事
- ・日本カリキュラム学会理事、学会誌編集委員
- ・教育目標・評価学会理事
- ・大学教育学会理事、学会誌編集委員
- ・学校図書算数教科書著作者
- ・大学生の就業力育成支援事業委員会書面審査委員
- ・山梨学院大学附属小学校学習カリキュラムセンター客員研究員

【講演】

(FD関係)

- ・松下佳代 2010.6「大学教育の実践知を共有する—コミュニティ・ネットワーク・コモンズ—」獨協大学外国語学部FD講演会、獨協大学
- ・松下佳代 2010.8「学習の質を評価する—パフォーマンス評価を中心に—」平成22年度関西国際大学・教員研修会、関西国際大学
- ・松下佳代 2010.8「日本における大学教育の課題とPFFP」国際シンポジウム：大学教育開発とネットワーク・大学院教育の役割、仙台国際センター

(その他)

- ・松下佳代 2010.7「パフォーマンス評価—子どもの思考と表現を評価する—」研修、鳥取県教育センター
- ・松下佳代 2010.12「PISAで教育の何が変わったか—日本の場合—」研究者によるPISA2009レビュー—日本の教育はPISAとどう向き合うか—、国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・松下佳代 2011.1「PISAリテラシーの意味—PISA2009の結果をふまえて—」理科カリキュラムを考える会第12回全国大会、東洋大学白山キャンパス

溝上 慎一（准教授）

1. 研究業績（2010.4～2011.3）

【著書】

- ・溝上慎一 2010.10『現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ』 有斐閣選書
- ・溝上慎一 2011.3「学生の大学生活に焦点を当ててFD／教育改善とキャリア教育を見直す—「大学生キャリアセミナー京都」の開発—」 京都大学高等教育研究開発推進センター（編）・松下佳代（編集代表）『大学教育のネットワークを創る—FDの明日へ—』 東信堂、Pp.168-191.

【学会発表】

- ・溝上慎一 2010.6 FD／教育改善とキャリア教育を「大学生活」で接続する2—学生研修の実践的報告—、第32回大学教育学会大会、愛媛大学
- ・溝上慎一 2010.9 青年期の自己形成と自立、小島康次企画ワークショップ「自己と自立」、日本心理学会第73回大会、大阪大学

- ・溝上慎一 2010.11 青年期の自己形成プロセスの研究—プロモーターとしての自己形成モード—, 日本青年心理学会第18回大会, 志學館大学
- ・溝上慎一・畑野快 2011.3 将来に向けた日々の努力が学生を成長させる—将来・現在指向性尺度の開発と2つのライフとの関連—, 第17回大学教育研究フォーラム, 京都大学
- ・溝上慎一 2011.3 シンポジウム報告「大学生の授業外学習の実態と成長指標としての授業外学習」第17回大学教育研究フォーラム, 京都大学
- ・溝上慎一 2011.3 ラウンドテーブル企画「正課教育／学業とラーニング・ブリッジングする課外活動の可能性—早稲田大学ボランティアセンターの活動をデータで検証する—」第17回大学教育研究フォーラム, 京都大学
- ・溝上慎一 2011.3 指定討論, 松下公望企画「「心」と「発達」のない心理学」, 日本発達心理学会大22回大会, 東京学芸大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

「現代日本の青年期」「自己形成の心理学」

② KUINEP

「University and University Students in Today's Japan」「Self-formation in Adolescence」

③大学院教育

教育学研究科「高等教育開発論研究 A」「高等教育開発論研究 B」「高等教育開発論基礎」

3. その他の活動

【社会活動】

大学教育学会理事

日本青年心理学会理事

International Conference on the Dialogical Self、Scientific Committee 委員

日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員

電通育英会大学生調査アドバイザー

日本発達心理学会『発達心理学研究』編集委員

日本教育心理学会『教育心理学研究』常任編集委員

日本発達心理学会理事

島根大学就学力育成支援事業外部評価委員

日本心理学会地域別代議員（近畿）

【講演等】

- ・溝上慎一 2010.4「将来を見据えた充実した大学生活を」立命館大学経済学会学生委員会講演.
- ・溝上慎一 2010.6「キャリア戦略」講演「就職活動を成功させるための大学生活の過ごし方」
京都ノートルダム女子大学英語英文学科授業
- ・溝上慎一 2010.8「学生研修という考え方—学生調査によるアセスメントと大学生キャリアセミナー」京都大学高等教育研究開発推進センター・(財)電通育英会『大学生研究フォーラム 2010』事例報告
- ・溝上慎一 2010.8「学生のアクティブラーニングと成長—学業とキャリアの統合—」産業能率大学第4回キャリア教育推進フォーラム講演
- ・溝上慎一 2010.9「正課教育で学生のキャリアをどう関連づけ、育てるか」大阪府立大学講演
- ・溝上慎一 2010.9「アンケートから見る福井県の学生の特徴」Fレックス第1回合宿研修会講演
- ・溝上慎一 2010.9「コオプ教育概論」講演「大学生活を基礎とするキャリア形成—日常生活を徹底的に見直す—」立命館大学集中講義

- ・ 溝上慎一 2010.9「大学の変化と学生の学びと成長支援について—大学と生協との協働を考える—」大学生協連 2010 年度キャリア形成支援活動セミナー in 高知大学講演
- ・ 溝上慎一 2010.9「現代大学生の実態」立命館大学総務部職員研修
- ・ 溝上慎一 2010.10「学生の現状を知ることから教職員の課題を探る」日本大学行政管理学会九州・沖縄地区研究会講演
- ・ 溝上慎一 2010.10「人は他者の森を駆け抜けて自己になる—「自己形成の心理学」入門—」河合塾河合文化教育研究所 2010 年度エンリッチ講座講演
- ・ 溝上慎一 2010.10「ザ・ワークショップ『大学での勉強は役に立つ!』」東京学芸大学学生キャリア支援センター主催
- ・ 溝上慎一 2010.11「無関心からの離脱、社会参加へ」立命館大学経済研究会主催講演会
- ・ 溝上慎一 2010.11「基礎基本から応用個性へと発展させる学生の学びと成長」北海道医療大学大学教育開発センター主催講演
- ・ 溝上慎一 2010.11「大学設置基準の改正—正課教育とキャリア教育の架け橋—」京都大学文学部 FD 研修会講演
- ・ 溝上慎一 2010.11「現代の大学成と大学教育の支援課題」「生活協同組合と地域事業連合の総合的研究」「京都の大学生協史編纂委員会」主催講演
- ・ 溝上慎一 2010.12「最近の学生の実態と教育的支援」国大協近畿支部研修専門分野研修
- ・ 溝上慎一 2010.12「キャリア教育の基本的理解と正課教育との掛け橋」福山大学キャリア支援センター主催
- ・ 溝上慎一 2010.12「インサイドアウトの適応力学にもとづく自己形成—現代青年期の時代的特徴—」QA 研（都築ゼミ、中央大学文学部）報告
- ・ 溝上慎一 2010.12「アクティブ・ラーニングだからこそ求められる知識、広がる学生生活」関西大学教育開発支援センター主催講演
- ・ 溝上慎一 2010.12「大学での勉強を将来につなげるために」南山大学学生交流センター主催ワークショップ
- ・ 溝上慎一 2010.12「実践的に見る現代大学生の特徴と初年次教育への接続」龍谷大学第 6 回 FD フォーラム講演
- ・ 溝上慎一 2011.1「大学のアクティブラーニング」問題提起「アクティブラーニングからの総合的展開—学士課程教育（授業・カリキュラム・質保証・FD）、キャリア教育、学生の学びと成長—」河合塾主催「（東京会場 2011 年 1 月 7 日、大阪会場 1 月 9 日）」
- ・ 溝上慎一 2011.1「職業と学び—キャリアデザインを考える—」講師「東大、京大、神大がなんぼのもの!—自らのキャリアを日常ベースであくなく探求—」
- ・ 溝上慎一 2011.1「京都大学の FD—相互研修型 FD とプレ FD—」岡山大学教育開発センター主催講演会
- ・ 溝上慎一 2011.2「アンケートから見る福井高専の学生の特徴」福井高等工業専門学校講演
- ・ 溝上慎一 2011.2「自己を差異化する他者を授業のなかでどのように盛り込むか—授業デザインとピアサポート」総合研究大学院大学学融合推進センター・第 2 回実践的大学院教育研究会講演
- ・ 溝上慎一 2011.2「高校／大学から仕事へのトランジション—学生の学びと成長に関わる自己形成—」パネルディスカッション報告「青年期発達としてのアイデンティティと資本としてのアイデンティティ」京都大学高等教育研究開発推進センター・自己意識研究会主催 国際シンポジウム
- ・ 溝上慎一 2011.3 “My teaching experience in a KUINEP class” 京都大学 K.U. PROFILE FD “Designing and Managing English-Taught Courses” 事例報告
- ・ 溝上慎一 2011.3「変動する現代社会のなかで「教えること」とは—高等教育・生涯学習をめぐる日英研究者の対話」パネルディスカッション報告「アクティブラーニングの観点から高等教育における新しい「教えること」の展開を見る」京都大学ジャーヴィス研究会主催出版記念シンポジウム
- ・ 溝上慎一 2011.3「アクティブラーニング型授業の質を高めるために」日本教育工学会 FD 特別研修講演

田口 真奈 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・田口真奈 2011.3「誰がどのようにFDを推進するのか—専門家モデル・同僚モデルと2つのサポートモデル」京都大学高等教育研究開発推進センター (編)・松下佳代 (編集代表)『大学教育のネットワークを創る—FDの明日へ—』東信堂、128-142 頁

【論文】

- ・田口真奈・出口康夫・赤嶺宏介・半澤礼之・松下佳代 2010.12「未来のファカルティをどう育てるか—京都大学文学研究科プレFDプロジェクトの試みを通じて—」『京都大学高等教育研究 16』、91-111 頁

【その他著作物】

- ・半澤礼之・田川千尋・田口真奈・松下佳代・田林千尋・小城拓理・溝上宏美・杉山卓史 2011.3「文学研究科プレFDプロジェクト」『京都大学高等教育叢書 29 平成 22 年度採択特別経費・教育関係共同利用拠点報告書 相互研修型FD拠点活動報告 2010』、37-59 頁
- ・松下佳代・半澤礼之・田口真奈 2011.3「新任教員セミナー 2010」『京都大学高等教育叢書 29 平成 22 年度採択特別経費・教育関係共同利用拠点報告書 相互研修型FD拠点活動報告 2010』、113-166 頁
- ・田口真奈・松下佳代・田川千尋 2011.3「FL フェロー制度」『京都大学高等教育叢書 29 平成 22 年度採択特別経費・教育関係共同利用拠点報告書 相互研修型FD拠点活動報告 2010』、187-194 頁
- ・半澤礼之・田口真奈 2011.3「FD 共同実施ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 29 平成 22 年度採択特別経費・教育関係共同利用拠点報告書 相互研修型FD拠点活動報告 2010』、243-248 頁

【学会発表】

- ・田口真奈・半澤礼之・村上正行・杉原真晃 2010.5.29「若手FD担当者の業務を通じたキャリア展望」日本高等教育学会第13回大会 関西国際大学
- ・田口真奈・半澤礼之・松下佳代 2010.7.3「授業デザインのリフレクションを促す大学教員向けワークシートの開発と評価」日本教育工学会研究会「新時代の学習評価：理論・システム・実践／一般」電気通信大学
- ・大山牧子・田口真奈 2010.7.3「アクティブ・ラーニング形態の初年次教育におけるグループ学習の役割」日本教育工学会研究会「新時代の学習評価：理論・システム・実践／一般」電気通信大学
- ・半澤礼之・田口真奈・杉原真晃・村上正行 2010.7.3「若手FD担当者の業務に対する感情に他部局との連携が与える影響」日本教育工学会研究会「新時代の学習評価：理論・システム・実践／一般」電気通信大学
- ・酒井博之・田口真奈・笹尾真剛 2010.9.18「オンラインFD支援システム『MOST』の活用—組織的FD活動の地域連携における適用—」日本教育工学会第26回全国大会 金城学院大学
- ・田口真奈・半澤礼之・村上正行・杉原真晃 2010.9.20「若手FD担当者のキャリア展望が業務に対する感情に与える影響」(課題研究7「高等教育・FDにおける教育工学の役割」)日本教育工学会第26回全国大会 金城学院大学
- ・大山牧子・田口真奈 2010.9.21「大学教育におけるアクティブ・ラーニング形態の授業デザインを協調的に振り返るためのICTの役割—MOSTを使用して—」日本教育工学会第26回全国大会 金城学院大学
- ・田口真奈・栗原正仁・宮本陽一郎・近田政博・出口康夫・田林千尋・吉良直 2011.3.17「プレFDの展開と今後の課題—我が国における先端事例を通じて—」第17回大学教育研究フォーラム 特別企画ラウンドテーブル 京都大学
- ・酒井博之・田口真奈 2011.3.17「オンラインFD支援システム『MOST』の活用—組織的FD活動の地域連携における適用—」第17回大学教育研究フォーラム 個人研究発表 京都大学
- ・大山牧子・田口真奈 2011.3.18「MOSTを使用した授業コースデザインの省察—アクティブ・ラーニング形態の授業を対象に—」第17回大学教育研究フォーラム個人研究発表 京都大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期分担）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育文献購読演習 A・B」（教育学研究科、前・後期）

3. その他活動

【学内委員】

- ・ 京都大学教育学研究科・教務委員

【講演】

- ・ 田口真奈 2010.6.25 「e ラーニングで変わる？！学びのカタチ」 平成 22 年度第 2 回ふれあい講座東京世田谷学習センター創立 25 周年記念 放送大学
- ・ 田口真奈 2010.7.15 「プレFDの現在」文学研究科第 5 回 FD 研修会 京都大学
- ・ 田口真奈 2010.12.10 「デジタル教科書の可能性」平成 22 年度情報教育研究集会 パネル討論 モデレータ 京都テルサ
- ・ 田口真奈 2010.12.17 「大学院における大学院教員養成機能を考える」 第 8 回教育実践公開研究会 大学教育実践センター
- ・ 田口真奈 2011.3.6 「大学教育における実践知の共有を促進する MOST」（第 5 分科会「FD・教育改善を推進するための ICT の役割」）第 16 回 FD フォーラム 京都外国語大学

酒井 博之（特定准教授）

1. 研究業績（2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日）

【著書】

- ・ 酒井博之 2011.3 「オンライン上における相互研修の場の構築—MOST の開発と展開に向けて—」『大学教育のネットワークを創る—FD の明日へ—』京都大学高等教育研究開発推進センター（編）・松下佳代（編集代表）、東信堂、107-125 頁

【その他の著作物】

- ・ 酒井博之 2010.7 関西地区 FD 連絡協議会第 3 回総会「FD 活動の報告会」、関西地区 FD 連絡協議会広報ワーキンググループ編（編集責任者）
- ・ 酒井博之 2010.9 「大学教員の教育改善活動支援のための Sakai 活用」理大科学フォーラム 27 巻 9 号、18-21 頁
- ・ 酒井博之 2011.3 III—1—2. FD 活動の報告会、京都大学高等教育叢書 29（「相互研修型 FD 拠点活動報告 2010」：平成 22 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 22 年度教育関係共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」）、233-239 頁
- ・ 酒井博之 2011.3 III—1—6. 広報ワーキンググループ、京都大学高等教育叢書 29（「相互研修型 FD 拠点活動報告 2010」：平成 22 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 22 年度教育関係共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」）、255-258 頁
- ・ 酒井博之 2011.3 IV—1. 大学教育ネットワークと MOST、京都大学高等教育叢書 29（「相互研修型 FD 拠点活動報告 2010」：平成 22 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 22 年度教育関係共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」）281-291 頁
- ・ 酒井博之、松下佳代、及川恵 2011.3 V—2. ISSOTL2010 参加報告、京都大学高等教育叢書 29（「相互研修型 FD 拠点活動報告 2010」：平成 22 年度特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」・平成 22 年度教育関係共同利用拠点「相互研修型 FD 共同利用拠点」）、343-349 頁

(4) 学会発表

- ・ 森朋子・雨森聡・酒井博之 2010.9 「効果的な修学サポートを目指すプログラム・デザイン実験—認知的徒弟制

における兄弟子の立ち位置に注目して—」日本教育工学会第26回全国大会、金城学院大学

- ・酒井博之・田口真奈・笹尾 真剛 2010.9 「オンラインFD支援システム「MOST」の活用—組織的FD活動の地域連携における適用—」日本教育工学会第26回全国大会、金城学院大学
- ・Sakai, H. 2010.10 Building a technology-enabled network for sharing practical knowledge of faculty development across institutions, the 2010 International Society for the Scholarship of Teaching and Learning Conference (Poster Session) (Liverpool, U.K., Oct. 20, 2010)
- ・酒井博之・田口真奈 2011.3 「オンラインFD支援システム「MOST」の活用—組織的カリキュラム改善を志向するコースポートフォリオへの適用—」第17回大学教育研究フォーラム、京都大学

2. 教育活動 (2010 年度)

【学内】

- ①全学共通科目：「音響心理学概論」（後期、A・B群）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究A・B」（前・後期・共同）、高等教育基礎ゼミナール 特（前期 木5、リレー講義）

【学外】

京都コンピュータ学院非常勤講師

3. その他の活動

【学内委員】

- ・情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会委員
- ・高等教育研究開発推進センター情報セキュリティ委員

【社会活動】

- ・関西地区FD連絡協議会 広報ワーキング・グループ
- ・大学コンソーシアム京都 FDフォーラム企画検討委員

【講演】

- ・酒井博之 2011.3.30 「ICTを活用した組織的教育改善—オンラインFD支援システム「MOST」とコースポートフォリオ—」大阪府立工業高等専門学校

【その他】

- ・酒井博之 2010.9.6「オンラインFD支援システム“MOST”とFDデザイン（話題提供）」関西地区FD連絡協議会・FDデザイン研究SG第1回研究会、神戸大学
- ・酒井博之 2010.12.10「オンラインFD支援システム“MOST”を活用した大学教育改善（話題提供）」情報教育研究会 企画セッション「ICTを活用した組織的FD」、京都テルサ
- ・酒井博之 2011.1.7 国際シンポジウム「フランス語圏の高等教育事情とICTの活用（指定討論）」岩手大学大学教育総合センター・東北大学高等教育開発推進センター、東北大学
- ・酒井博之 2011.3.6「FD・教育改善を推進するためのICTの役割（第5分科会・コーディネーター）」、第16回FDフォーラム、大学コンソーシアム京都、京都外国語大学

及川 恵 (特定准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・及川恵 2011.3「ストレスと適応」 京都大学心理学連合（編）「心理学概論」 ナカニシヤ出版、Pp. 288-293.

【論文】

- ・及川恵・林潤一郎 2010.11 「気晴らし方略が問題解決に及ぼす影響—大学生の学業ストレス場面における検討—」 パーソナリティ心理学研究, 19, 170-173.

- ・ 及川恵・坂本真士 2010.12 「大学生における気晴らし方略に焦点化した心理教育が自己効力感に与える影響」 ストレス科学, 25, 230-235.
- ・ 及川恵・大塚雄作, 石川裕之 2010.12 「京都大学工学部学生の学生生活と知識・スキル及び適応との関連性」 京都大学高等教育研究, 16, 113-119.

【その他の著作物】

- ・ 及川恵・半澤礼之・清水克哉・田平亜美子 2011.2 「平成 22 年度小中高大連携推進事業—サイエンス・コミュニケーター・プロジェクト—事業報告書」 京都大学高等教育研究開発推進センター／教育推進部
- ・ 半澤礼之・及川恵・藤本夕衣 2011.3 「大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」 京都大学高等教育叢書, 29, 61-79.
- ・ 大塚雄作・石川裕之・及川恵 2011.3 「第 6 回工学部教育シンポジウム」 京都大学高等教育叢書, 29, 167-175.
- ・ 半澤礼之・及川恵 2011.3 「サイエンスコミュニケーター・プロジェクト」 京都大学高等教育叢書 29, 177-179.
- ・ 大塚雄作・及川恵・石川裕之 「研究ワーキンググループ」 京都大学高等教育叢書, 29, 259-268.
- ・ 大塚雄作・石川裕之・及川恵 「FD ネットワーク代表者会議 (JFDN)」 京都大学高等教育叢書, 29, 325-331.
- ・ 松下佳代・酒井博之・及川恵 「ISSOTL2010 参加報告」 京都大学高等教育叢書, 29, 343-349.
- ・ 石川裕之・大塚雄作・及川恵 「韓国の大学における F D の実践状況とその評価のあり方に関する調査」 京都大学高等教育叢書, 29, 359-366.

【学会発表】

- ・ 及川恵・林潤一郎 2010.5 「The Role of Goal Clarification in Successful Problem Solving Using Distraction」 The 2010 Association for Psychological Science Annual Convention, Boston.
- ・ 及川恵・小川絢子・大塚雄作・石川裕之 2010.8 「学生生活の活動が知識・スキルや心理的適応に与える影響—卒業時学生調査に基づいて」 日本教育心理学会第 52 回総会 (早稲田大学)
- ・ 及川恵 2010.8 「学校適応はどのようにとらえられるのか (2) —適応理論間の対話から探る学校適応—」 (指定討論) 日本教育心理学会第 52 回総会 (早稲田大学)
- ・ 及川恵 2010.9 「大学生への健康心理学の実践—授業を活用した試み—」 (話題提供) 日本健康心理学会第 23 回大会 (江戸川大学)
- ・ 及川恵・亀山晶子・坂本真士 2010.9 「抑うつ予防を目的とした心理教育プログラムの検討 (5) —対人的対処に改訂を加えた効果—」 日本心理学会第 74 回大会 (大阪大学)
- ・ 亀山晶子・及川恵・坂本真士 2010.9 「抑うつ予防を目的とした心理教育プログラムの検討 (6) —対人関係への対処に関する効力感の変化について—」 日本心理学会第 74 回大会 (大阪大学)
- ・ 及川恵 2010.9 「臨床心理学における認知的情報処理の機能 その 2—応用・介入に焦点をあてて—」 (話題提供) 日本心理学会第 74 回大会 (大阪大学)
- ・ 林潤一郎・及川恵 2010.10 「気晴らしの問題解決促進プロセスに及ぼす特性要因の影響—先延ばしと認知的再解釈に着目して—」 日本パーソナリティ心理学会第 19 回大会 (慶應義塾大学)
- ・ 及川恵・小川絢子・大塚雄作・石川裕之 2010.10 「The relationships between student activity, school results, and psychological adaptation.」 International Society for the Scholarship of Teaching and Learning Conferences, Liverpool.

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「心理的適応とストレス」(前期)
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」(前・後期・共同)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 学生委員会委員
- ・ ハラスメント部局相談窓口

石川 裕之、現職：特定助教（2010 年度）

1. 研究業績（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

【著書】

- ・ 石川裕之「才能児の特性」2010.4 松村暢隆、石川裕之、佐野亮子、小倉正義編『ワードマップ 認知的個性—違いが活きる学びと支援—』新曜社、16-21 頁
- ・ 石川裕之「創造性」2010.4 松村暢隆、石川裕之、佐野亮子、小倉正義編『ワードマップ 認知的個性—違いが活きる学びと支援—』新曜社、33-38 頁
- ・ 石川裕之「美術・音楽の優れた能力」2010.4 松村暢隆、石川裕之、佐野亮子、小倉正義編『ワードマップ 認知的個性—違いが活きる学びと支援—』新曜社、45-50 頁
- ・ 石川裕之「飛び級・飛び入学」2010.4 松村暢隆、石川裕之、佐野亮子、小倉正義編『ワードマップ 認知的個性—違いが活きる学びと支援—』新曜社、66-70 頁
- ・ 石川裕之 2011.3『韓国の才能教育制度—その構造と機能—』東信堂

【論文】

- ・ 石川裕之 2010.8「障害のある子どもに配慮し始めた韓国の才能教育」『実践障害児教育』第 446 号、27-31 頁
- ・ 及川恵、大塚雄作、石川裕之 2010.12「京都大学工学部学生の学生生活と知識・スキル及び適応との関連性」『京都大学高等教育研究』第 16 号、113-119 頁

【その他の著作物】

- ・ 石川裕之 2011.3「公開授業・検討会」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告書 2010』33-35 頁
- ・ 大塚雄作、石川裕之、及川恵 2011.3「第 6 回工学部教育シンポジウム」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告書 2010』167-175 頁
- ・ 石川裕之、田川千尋 2011.3「活動成果の概要」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告書 2010』197-232 頁
- ・ 松下佳代、田川千尋、石川裕之 2011.3「FD 連携企画ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告書 2010』249-254 頁
- ・ 大塚雄作、及川恵、石川裕之 2011.3「研究ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告書 2010』259-268 頁
- ・ 大塚雄作、石川裕之、及川恵 2011.3「FD ネットワーク代表者会議（JFDN）—公開シンポジウムおよび第 3 回会合について—」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告書 2010』325-331 頁
- ・ 石川裕之、大塚雄作、及川恵 2011.3「韓国の大学における FD の実践状況とその評価のあり方に関する調査」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告書 2010』359-368 頁
- ・ 石川裕之 2011.3「海外研究者の招聘・交流」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告書 2010』367-368 頁
- ・ 大塚雄作著、大塚雄作、及川恵、石川裕之編 2011.3『京都大学高等教育叢書 30 FD ネットワークの展開と大学教育改革の方向性を問う』京都大学高等教育研究開発推進センター
- ・ 石川裕之 2011.03「韓国におけるトランスナショナル・エデュケーション—オランダ海運物流大学韓国分校（STC-Korea）を事例に—」杉本均（研究代表者）『トランスナショナル・エデュケーションに関する総合的国際研究』平成 20-22 年度科学研究費補助金基盤研究（B）最終報告書、142-153 頁
- ・ 石川裕之 2011.03「韓国における大学の質保証と学習成果アセスメントをめぐる状況」深堀聰子（研究代表者）『学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究』国立教育政策研究所平成 22 年度プロジェクト研究 中間報

告書、39-48 頁

【学会発表】

- ・ 深堀聰子、南部広孝、石川裕之、森利枝 2010.5「大学の質保証システムの類型（マス化×私費負担率）—学習成果アセスメントの位置づけにむけて—」日本高等教育学会第13回大会、関西国際大学・尼崎キャンパス
- ・ 石川裕之 2010.6「韓国における才能教育制度の構造と機能に関する考察」日本比較教育学会第46回大会、神戸大学
- ・ 及川恵、小川絢子、大塚雄作、石川裕之 2010.8「学生生活の活動が知識・スキルや心理的適応に与える影響—卒業調査に基づいて—」日本心理学会第52回大会、早稲田大学
- ・ 石川裕之、福野裕美 2010.8「認知的個性を活かす才能教育」日本心理学会第52回大会、早稲田大学

2. 教育活動（2010年度）

【学外】

- * 非常勤講師
びわこ成蹊スポーツ大学
奈良女子大学

3. その他の活動（2010年4月～2011年3月）

【社会活動】

- * 学会役員、学外委員など
 - ・ 日本比較教育学会 幹事（近畿地区）
 - ・ 国立教育政策研究所 研究協力委員
 - ・ 国際日本文化研究センター 共同研究員
 - ・ 大学評価・学位授与機構 専門委員

【講演】

- ・ 石川裕之 2010.8「相互研修型FD 共同利用拠点について」平成22年度全国大学教育研究センター等協議会総会シンポジウム「大学教育のネットワークと連携・協力の今後」、東北大学
- ・ 石川裕之 2010.9「韓国における早期高等教育—大学早期入学制度を中心に—」第1回早期高等教育連携協議会「飛び入学サミット」、千葉大学

【その他】

- * 取材受け入れなど
 - ・ 松下政経塾 教育研究会 2010.10.12「理数英才教育の日韓比較」
 - ・ 朝日新聞（夕刊）2010.11.10 第10面「橋下流『英才』教育」
 - ・ 毎日新聞 2010.12.8 第18面「実践強化で上海台頭＜国際学力テスト＞韓国も高止まり」
 - ・ 朝日新聞 2011.1.9 第20面「韓国のエリート養成高校 中身は」

半澤 礼之（特定助教）

1. 研究業績

【著書】

なし

【論文】

- ・ 半澤礼之 2010 授業評価が大学生の学業態度や学業行動の変化に与える影響 心理科学, 31, 2, 23-29.
- ・ 田口真奈・出口康夫・赤嶺宏介・半澤礼之・松下佳代 2010 未来のファカルティをどう育てるか—京都大学文学研究科プレFDプロジェクトの試みを通じて— 京都大学高等教育研究 16, 91-111.

【その他の著作物】

- ・半澤礼之・田川千尋・田口真奈・松下佳代・田林千尋・小城拓理・溝上宏美・杉山卓史（2011）. 文学研究科プレFD プロジェクト 京都大学高等教育叢書 29「大学教員教育研修のための相互研修型FD 拠点形成 2010」, 37-59.
- ・半澤礼之・藤本夕衣・及川恵（2011）. 大学院生のための教育実践講座 京都大学高等教育叢書 29「大学教員教育研修のための相互研修型FD 拠点形成 2010」 61-98.
- ・松下佳代・田口真奈・半澤礼之（2011）. 新任教員教育セミナー 京都大学高等教育叢書 29「大学教員教育研修のための相互研修型FD 拠点形成 2010」, 113-166.
- ・及川恵・半澤礼之（2011）. サイエンスコミュニケーター・プロジェクト 京都大学高等教育叢書 29「大学教員教育研修のための相互研修型FD 拠点形成 2010」, 177-186.
- ・田口真奈・半澤礼之（2011）. FD 共同実施ワーキンググループ 京都大学高等教育叢書 29「大学教員教育研修のための相互研修型FD 拠点形成 2010」, 243-247.
- ・半澤礼之・田口真奈（2011）. 若手FD 研究者ネットワーク（JFDN Jr.）—2010年度の活動報告と今後の展開について 京都大学高等教育叢書 29「大学教員教育研修のための相互研修型FD 拠点形成 2010」, 333-339.

【学会発表】

- ・田口真奈・半澤礼之・村上正行・杉原真晃（2010）. 若手FD 担当者の業務を通じたキャリア展望 日本高等教育学会第13回大会発表要旨集録, 44-45.
- ・半澤礼之・田口真奈・杉原真晃・村上正行（2010）. 若手FD 担当者の業務に対する感情に他部局との連携が与える影響 日本教育工学会研究報告集 10, 3, 141-144.
- ・田口真奈・半澤礼之・松下佳代（2010）. 授業デザインのリフレクションを促す大学教員向けワークシートの開発と評価 日本教育工学会研究報告集 10, 3, 151-156.
- ・半澤礼之・大久保智夫（2010）. 学校適応はどのようにとらえられるのか（2）：適応理論間の対話から探る学校適応 シンポジウム企画・司会 日本教育心理学会第52回総会論文集, 148-149.
- ・半澤礼之（2010）. 大学生の学業に対するリアリティショックと学業適応（3）—大学進学動機に応じた学業に対するリアリティショックへの認知的評価の差異— 日本教育心理学会第52回総会論文集, 313.
- ・田口真奈・半澤礼之・村上正行・杉原真晃（2010）. 若手FD 担当者のキャリア展望が業務に対する感情に与える影響 日本教育工学会第26回全国大会講演論文集, 153-156.
- ・半澤礼之（2010）. 大学生の学業行動と職業レディネスの関連—学業と職業の接続に対する意識という観点からの検討— 日本青年心理学会第18回大会発表論文集, 55-56.

2. 教育活動

【学内】

なし

【学外】

非常勤講師：

関西大学「発達心理学」

武庫川女子大学「児童青年心理学」

武庫川女子短期大学「キャリア心理学」

京都橘大学「教育心理学」

3. その他の活動

関西地区FD 連絡協議会第3回総会 活動報告「初任者研修共同実施に向けて」報告者 2010.4.24（京都大学）

田川 千尋（特定助教）

1. 研究業績（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

【その他の著作物】

（報告書）

- ・石川裕之・田川千尋 2011.3「活動成果の概要」『京都大学高等教育研究叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』197-232 頁
- ・半澤礼之・田川千尋・田口真奈・松下佳代・田林千尋・小城拓理・溝上宏美・杉山卓 史 2011.3「文学研究科プレ FD プロジェクト」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』37-59 頁
- ・田口真奈・松下佳代・田川千尋 2011.3「FL フェロー制度」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』187-194 頁
- ・松下佳代・田川千尋・石川裕之 2011.3「FD 連携企画ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』249-254 頁
- ・田川千尋 2011.3「ICED2010 参加報告」『京都大学高等教育叢書 29 相互研修型 FD 拠点活動報告 2010』341-342 頁

（翻訳）

- ・ユーリア・エンゲストローム 2010.12『変革を生む研修のデザイナー—仕事を教える人への活動理論—』（松下佳代・三輪建二監訳）鳳書房（第5章担当）

【学会発表】

- ・Tagawa, C. 2011.1 Comment l'université transforme-t-elle face à la demande de la professionnalisation de sa formation? : l'exemple du Japon. L'enseignement supérieur et la recherche en réformes Third International RESUP Conference, Science-Po Paris, France.

2. 教育活動（2010 年度）

なし

3. その他の活動

【講演】

大場淳・田川千尋 2011.3「フランスにおける高等教育の質保証—欧州における質保証の展開を受けて—」広島大学高等教育研究開発推進センター戦略的研究プロジェクト「欧州における質保証とその政策過程に関する研究会」、東北大学東京分室

第二部門（全学共通教育カリキュラム企画開発部門）

吉田 純（教授）

1. 研究業績（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

【論文】

- ・吉田純 2010.6「情報ネットワーク社会における〈監視〉と〈プライバシー〉」、『システム／制御／情報』第54巻6号、225-230 頁

【学会発表】

- ・吉田純 2010.11「公共圏概念の再検討——情報ネットワーク社会論と再帰的近代化論の視角から」、京都大学グローバル COE「親密圏と公共圏の再編成を目指すアジア拠点」第4回公共圏研究会、京都大学

2. 教育活動（2010 年度）

【学内】

- ①全学共通教育：「社会学基礎論」「経験社会学Ⅰ」「社会学基礎ゼミナール A・B」
- ②学部教育：「社会情報論」「社会情報論演習 A・B」（以上、総合人間学部）、「社会学特殊講義」（文学部）
- ③大学院教育：「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」「人間・社会行動論 2」「社会行動論演習 2」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）、「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「社会行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）、「社会学特殊講義」（文学研究科）

3. その他の活動（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

【学内委員】

高等教育研究開発推進機構執行協議会
全学共通教育システム委員会
教養教育専門委員会
教養教育専門委員会 A 群科目部会
教養教育専門委員会 B 群科目部会

【社会活動】

日本社会情報学会 理事、会誌編集委員
日本社会学会 データベース委員
近畿地区大学教育研究会 専門委員、企画小委員会委員

小田 伸午（教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・ヒトの動き百話
小田伸午、市橋則明、市村出版、2011. 2 月
- ・マンガでみるスポーツ科学 速く走るコツ
小田伸午、三ツ井滋之、朝日出版、2011. 3 月

【論文】

- ・Yamada Y, Sholler DA, Nakamura E, Morimoto T, Kimura M, Oda S: Extracellular Water May Mask Actual Muscle Atrophy During Aging. J Gerontol A Biol Sci Med Sci (2010) 65A (5) : 510-516.
- ・Tateuchi H, Tsukagoshi R, Fukumoto Y, Oda S, Ichihashi N: Dynamic hip joint stiffness in individuals with total hip arthroplasty: Relationships between hip impairments and dynamics of the other joints. Clinical Biomechanics. 2011 (in press)

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育
担当授業：運動科学、スポーツ実習（二軸動作）
委員会：全学共通教育システム委員会、基礎教育専門委員会、教養教育専門委員会、D 群科目部会（部会長）
- ②学部教育
担当授業：運動制御ゼミ IA、運動制御ゼミ IB、運動制御実験、認知行動科学入門
- ③大学院教育
担当授業：身体運動学、行動制御学演習 1、認知・行動科学基礎論、共生人間学研究Ⅰ、共生人間学研究Ⅱ、共生人間学特別研究Ⅰ、共生人間学特別研究Ⅱ、行動制御学特別演習 1、行動制御学特別演習 2、認知・行動科学特別セミナー

3. その他の活動

【学会活動】

日本体育学会会員、京都体育学会副会長、日本体力医学会幹事、日本運動生理学会会員、
日本バイオメカニクス学会会員、日本トレーニング科学会会員

【高校大学連携】

京都府立向陽高校にてスポーツ科学の授業担当
大阪市立桜宮高校にてスポーツ科学の授業担当

山本 行男 (教授)

1. 研究業績 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【著書】

該当なし

【論文】

- ・ M. Taki, S. Iyoshi, A. Ojida, I. Hamachi, Y. Yamamoto, Development of Highly Sensitive Fluorescent Probes for Detection of Intracellular Copper (I) in Living Systems, *J. Am. Chem. Soc.*, 132 (40), 5938–5939 (2010).
- ・ M. Taki, F. Asahi, T. Hirayama, Y. Yamamoto, Design and Synthesis of Fluorescent Probe for Polyhistidine Tag Using Macrocyclic Nickel (II) Complex and Fluorescein Conjugate, *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, 84 (4), 386–394 (2011).
- ・ T. Ito, A. Narita, T. Hirayama, M. Taki, S. Iyoshi, Y. Yamamoto, Y. Maéda, T. Oda, Human Spire Interacts with the Barbed End of the Actin Filament, *J. Mol. Biol.*, 408, 18–25 (2011).
- ・ T. Ito, T. Hirayama, M. Taki, S. Iyoshi, S. Dai, S. Takeda, C. Kimura-Sakiyama, T. Oda, Y. Yamamoto, Y. Maéda, A. Narita, Electron Microscopic Visualization of the Filament Binding Mode of Actin-Binding Proteins, *J. Mol. Biol.*, 408, 26–39 (2011).

【その他の著作物】

該当なし

【学会発表】

- ・ 伊吉祥平・多喜正泰・山本行男, 局所的亜鉛濃度変化の検出を指向した新規蛍光センサーの開発, 生体機能関連化学若手の会 第22回サマースクール, 亀山市, 2010年7月
- ・ 水川友章・酒井尚子・多喜正泰・山本行男, フェノキシメチル基を有する TPA 四座配位子の銅一価および二価錯体の構造と反応性, 第60回錯体化学討論会, 大阪国際交流センター, 2010年9月
- ・ Masayasu Taki, Shohei Iyoshi, and Yukio Yamamoto, Development of Copper (I) -selective Fluorescent Probes Based on a Reduced Form of Fluorescein, 60CCCO, 大阪国際交流センター, 2010年9月
- ・ Shohei Iyoshi, Masayasu Taki, and Yukio Yamamoto, Development of Novel Fluorescent Zinc Probe that Localizes at Plasma Membrane to Enable Site-Specific Detection of Zinc Ion, The 5th AsBiC, Kaohsiung, Taiwan, 2010, 11
- ・ Masayasu Taki, Fumiyoshi Asahi, and Yukio Yamamoto, Design and Synthesis of Visible-Excitable Fluorescent Probe for Polyhistidine Tag Using Macrocyclic Nickel (II) Complex, The 5th AsBiC, Kaohsiung, Taiwan, 2010, 11
- ・ Tomoaki Mizukawa, Masayasu Taki, Naoko Sakai, and Yukio Yamamoto, Mechanistic studies on the intramolecular debenzoylation by copper-dioxygen complexes supported by TPA derivatives, Pacificchem2010, Honolulu, USA, 2010.12
- ・ Shohei Iyoshi, Masayasu Taki, and Yukio Yamamoto, Structural, electrochemical, and photophysical properties of fluorescent copper probes containing multidentate thioether ligand, Pacificchem2010, Honolulu, USA, 2010.12
- ・ Masayasu Taki, Shohei Iyoshi and Yukio Yamamoto, Development of a novel copper (I) fluorescent probe utilizing copper-dioxygen activation mechanism, Pacificchem2010, Honolulu, USA, 2010.12
- ・ 水川友章・酒井尚子・多喜正泰・山本行男, TPA 型四座配位子を用いた銅-活性酸素錯体による C-H 結合活性化機構の解明, 日本化学会第90春季年会, 日本化学会第91春季年会 (2011) 講演予稿集, 2011年3月
- ・ 山元雅信・伊吉祥平・多喜正泰・山本行男, CS124 骨格を有する時間分解型亜鉛蛍光プローブの開発, 日本化学会

第90春季年会, 日本化学会第91春季年会(2011)講演予稿集, 2011年3月

- ・伊吉祥平・多喜正泰・山本行男, 還元型フルオレセイン骨格を有する新規レシオ型銅一価蛍光プローブの開発, 日本化学会第90春季年会, 日本化学会第91春季年会(2011)講演予稿集, 2011年3月
- ・赤岡一志・多喜正泰・山本行男, 新規Ni-NTAオリゴマーの開発とポリヒスチジンとの結合挙動, 日本化学会第90春季年会, 日本化学会第91春季年会(2011)講演予稿集, 2011年3月
- ・伊吉祥平・多喜正泰・山本行男, 細胞膜外縁部における局所的亜鉛濃度変化の検出を指向した新規蛍光プローブの開発, 日本化学会第90春季年会, 日本化学会第91春季年会(2011)講演予稿集, 2011年3月
- ・吉田兆志・伊吉祥平・多喜正泰・山本行男, チオエーテル配位子を有する銅一価錯体の構造及び物理化学的性質, 日本化学会第90春季年会, 日本化学会第91春季年会(2011)講演予稿集, 2011年3月
- ・阿部瑞紀・多喜正泰・山本行男, 様々な配位子を有する還元型フルオレセイン誘導体の開発, 日本化学会第90春季年会, 日本化学会第91春季年会(2011)講演予稿集, 2011年3月

2. 教育活動 (2010年度)

【学内】

①全学共通教育:「基礎有機化学A・B」「基礎化学実験」、②学部教育:「物質構造論」「課題演習:分子の構造と機能」「自然科学特別ゼミナールA・B」(以上、総合人間学部)、③大学院教育:「関連環境学研究I・II」「分子生体相關論1」「分子環境相關論演習1・2」「分子・生命環境基礎論」(以上、人間・環境学研究科 博士前期課程)、「関連環境学特別研究I・II」「分子環境相關論特別演習1・2」「分子・生命環境論特別セミナー」(以上、人間・環境学研究科 博士後期課程)

【学外】

該当なし

3. その他の活動 (2010年4月～2011年3月)

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進機構長
- ・全学共通教育委員会
- ・全学共通教育システム委員会
- ・施設整備委員会
- ・京都大学図書館協議会
- ・附属図書館運営委員会
- ・フィールド科学研究センター協議委員会

【社会活動】

*学会役員、学外委員など

【講演】

該当なし

【その他】

- ・2011年1月16日 京都府立宮津高等学校 出前授業

田地野 彰 (教授)

1. 研究業績 (2010年4月～2011年3月)

【著書】

[単著]

- ・田地野彰 2011.03『＜意味順＞英作文のすすめ』岩波書店, 全196頁.

[共著]

・田地野彰他 2010.12『21世紀のESP－新しいESP理論の構築と実践』大修館書店, (執筆担当:160-162頁, 215-218頁).
[共編著]

・Tajino, A., Stewart, T. and Dalsky, D. (eds.). 2010.04『Writing for Academic Purposes 英作文を卒業して英語論文を書く』ひつじ書房, 全 213 頁.

【論文】

- ・田地野彰 2010.09「英語カリキュラム開発へのシステムアプローチ」『日本英文学会第82回大会 Proceedings』pp.169-171.
- ・Bolstad, F., Kanamaru, T., and Tajino, A. 2010.09 'Laying the groundwork for ongoing learning: A scaffolded approach to language education in Japanese elementary schools and beyond.' *INTERSPEECH 2010 Satellite Workshop on Second Language Studies: Acquisition, Learning, Education and Technology: Proceedings*. pp.1-4.
- ・Tajino, A., Dalsky, D. and Sasao, Y. 2010.10 'Academic vocabulary reconsidered: An EAP curriculum-design perspective.' *Iranian Journal of Teaching English as a Foreign Language and Literature*. Vol.1, No.4, pp.3-21.
- ・Tajino, A. and Kanamaru T. 2011.01 'An interdisciplinary data-based academic word list: Developing an EAP curriculum.' *IATEFL 2010 Harrogate Conference Selections*. (International Association of Teachers of English as a Foreign Language, U.K.), pp.96-97.

3. その他の著作物

・田地野彰, 金丸敏幸, 中川勝吾 2010.10「『学術研究に資する英語』を目指して—『京大・学術語彙データベース基本英単語 1110』の誕生—」,『共通教育通信』Vol.15, pp.8-9. 京都大学高等教育研究開発推進機構.

【学会発表】

- ・Tajino, A. and Kanamaru, T. 2010.04 'An interdisciplinary data-based academic word list: Developing an EAP curriculum.' IATEFL (国際英語教育学会, 英国) 2010 年度国際大会 (Harrogate, Yorkshire, U.K.).
- ・金丸敏幸, 田地野彰 2010.07「理工系英語教育を考える—京都大学の英語カリキュラム改革と教材開発」, 早稲田大学総合研究機構情報教育研究所主催公開研究会.
- ・金丸敏幸, フランチェスコ・ボルスタッド, 田地野彰 2010.07「創造的英語コミュニケーションに向けた『意味順』指導」, 小学校英語教育学会第10回全国大会 (北海道工業大学).
- ・高橋幸, 井ノ上憲司, 細越響子, 田地野彰 2010.08「英語能力に対する主観的・客観的評価マッピングシステムの開発」, 外国語教育メディア学会 50 周年記念全国研究大会 (横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校).
- ・マスワナ紗矢子, 金丸敏幸, 田地野彰 2010.09「学術論文の分野横断的ムーブ分析—各分野の専門家の協力を得て—」, 第49回大学英語教育学会全国大会 (宮城大学).
- ・Bolstad, F., Kanamaru, T., and Tajino, A. 2010.09 'Laying the groundwork for ongoing learning: A scaffolded approach to language education in Japanese elementary schools and beyond.' *INTERSPEECH Satellite Workshop on "Second Language Studies: Acquisition, Learning, Education and Technology"* (Waseda University).
- ・田地野彰, 金丸敏幸, マスワナ紗矢子, 北田優方, 川西慧, 日高佑郁 2010.12 「学術目的の英語教育研究: 課題と展望—語彙とライティングを中心として—」, 第104回東アジア英語教育研究会にて研究発表 (西南学院大学).
- ・金丸敏幸, マスワナ紗矢子, 笹尾洋介, 田地野彰 2011.03 「英語論文表現データベースを用いた分野横断的ムーブ分析」, 言語処理学会第17回年次大会 (豊橋技術科学大学).
- ・高橋幸, 金丸敏幸, 日高佑郁, 寺内一, 飯島優雅, 田地野彰 2011.03「英語アカデミックライティング評価指標の構築に向けて」, 第17回大学教育研究フォーラム (京都大学).

2. 教育活動 (2010 年度)

【学内】

- ①学共通教育 英語 IA・B, 英語 II A・B
- ②学部教育 英語教育方法論 (総合人間学部)

- ③大学院教育（博士前期課程）共生人間学Ⅰ・Ⅱ，教育言語学，外国語教育基礎論，
外国語教育基礎論演習；（博士後期課程）共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ，外国語教育論特別演習1・2，外国語教育論特別セミナー（人間・環境学研究科）

【学外】

- ・京都府立大学 英語Ⅰ，英語Ⅱ，英語科教育法Ⅰ
- ・奈良女子大学国際交流センター 夏季英語講座
- ・京都府立向陽高校（高大連携プロジェクト）

3. その他の活動（2010年4月～2011年3月）

【学内委員】

- ・外国語教育専門委員会
- ・外国語教育専門委員会英語部会
- ・国立七大学外国語教育連絡協議会
- ・発明評価委員会

【学外委員（研究活動）】

- ・大学英語教育学会関西支部研究企画委員

【講演】

- ・田地野彰 2010.05「カリキュラム開発へのシステムアプローチ」. シンポジア第11部門「大学英語教育改革を検証する」. 日本英文学会第82回全国大会（神戸大学）.
- ・田地野彰 2011.03「京都大学におけるEAP教育実践」. 大学英語教育学会関西支部主催第3回文化講演会（関西学院大学大阪梅田キャンパス）

赤松 紀彦（教授）

1. 研究業績（2010年4月～2011年3月）

【著書】

（共著）

- ・道坂昭廣、赤松紀彦ほか著 2011.3『中国語の世界—北京・2011』

【論文】

- ・赤松紀彦・金文京・小松謙ほか 2010.12「元刊雜劇の研究（8）「火焼介子推」第三・四折全訳校注」『京都外国語大学研究論叢』75、京都外国語大学国際言語平和研究所、27-50頁
- ・赤松紀彦 2011.3「せりふから見た南戯」『日本と中国の古典演劇の比較研究』京都府立大学、23-31頁

2. 教育活動（2010年度）

【学内】

- ①全学共通教育：「中国語ⅠA・B」「中国語ⅡA・B」
- ②学部教育：「東アジア比較芸能論演習A・B」「東アジア比較芸能論A」「文化環境学入門B」（総合人間学部）
- ③大学院教育：「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」「東アジア比較芸能論A」「地域文明論演習」（以上、人間・環境学研究科）

3. その他の活動（2010年4月～2011年3月）

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・全学共通教育実施委員会
- ・CALLシステム運用委員会
- ・初修外国語群会代表

田中 真介 (准教授)

1. 研究業績 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【論文】

- ・ 田中真介 2010.9. 「予防接種被害による重度障害の実態と療育生活」日本応用心理学会第 77 回大会発表論文集、13 頁.
- ・ 田中真介 2010.9. 「幼児期における自己信頼性の発達診断と保育計画」日本応用心理学会第 77 回大会発表論文集、26 頁.
- ・ 田中真介 2010.9. 「発達権の保障に関する国際的な動向と課題」日本応用心理学会第 77 回大会発表論文集、30 頁.
- ・ Tanaka, S., 2010. 6. "Developmental relationships among self-reliance, subject-object interactivities and social communication from the birth to 6 months of age in human and non-human primates," (ヒトとヒト以外の霊長類における出生から生後 6 か月での自己信頼性と対象的活動及び社会的交流活動の発達の諸連関)、The International Conference on Education "Education & Sustainable Life -New Perspectives in Cognitive, Environmental and Intercultural Learning: from Preschool Education to Information Society-, "Fragmenta Ioannea Collecta (F.I.C.), Special Volume, pp.115-122.

【学会発表】

- ・ Tanaka, S., 2010. 7. "Developmental consultation and educational support for an infant with profound disabilities by harmful effects of prophylactic BCG Vaccination" (BCG 予防接種の副作用による重度障害のある乳児に対する発達相談と教育援助), 27th International Congress of Applied Psychology, International Association on Applied Psychology (第 27 回国際応用心理学会大会).
- ・ 高谷清・加藤直樹・森本創・齋藤昭・田中真介・張貞京、2010. 9. 「発達保障論の成り立ち・現在・展望 -近江学園における実践と研究の系譜から-」日本応用心理学会第 77 回大会、大会記念企画シンポジウム、京都大学.
- ・ 栗原敦・田井中克人・和気正芳・村上正裕・田中真介、2010. 9. 「予防接種被害と心理学の役割」日本応用心理学会第 77 回大会、大会企画シンポジウム 1、京都大学.
- ・ ジャック・キルツェンブラット、奈須康子、リオニ・キルツェンブラット、田中真介、2010. 9. 「臨床の場で大切にしたいこと」日本応用心理学会第 77 回大会、大会企画シンポジウム 2、京都大学.
- ・ 小倉直子・高城寛志・楠凡之・佐々木美智子・中村隆一・田中真介・服部敬子、2010. 9. 「発達診断の役割と可能性 -発達診断技術の検討を踏まえて-」日本応用心理学会第 77 回大会、大会企画シンポジウム 3、京都大学.
- ・ 西牟田祐二・伊藤武彦・大坊郁夫・田中真介、2010. 9. 「9.11 の子どもたちへ」日本応用心理学会第 77 回大会、大会特別シンポジウム、京都大学.

2. 教育活動 (2010 年度)

【学内】

- ①共通教育：「発達論 A/B」、「スポーツ指導法ゼミナール A/B」、「スポーツ実習 IA/IB」を担当
- ②学部教育：学生部及び健康科学センターで、全学の学生及び教職員を対象とする健康相談とスポーツ指導・相談を担当
- ③大学院教育：人間・環境学研究科「共生人間学研究 I/II」、「認知・行動科学総合演習」、「行動発達論」、「行動制御学演習」を担当

【学外】

花園大学「生命科学 I, II」を担当

3. その他の活動 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【学内委員】

- ・教養教育専門委員会 B 群科目部会・D 群科目部会・少人数教育部会の各委員
- ・大学院人間・環境学研究科にて教務委員会委員

【社会活動】

- ・日本応用心理学会会員・常任理事。機関誌「応用心理学研究」編集委員会、国際交流委員会、広報委員会の各委員
- ・日本応用心理学会第 77 回大会（京都大学）大会委員長
- ・京都・島根ジフテリア予防接種被害研究会

【講演】

割愛します

【その他】

- ・京都大学大学院人間・環境学研究科（協力教員）
- ・京都大学学生部スポーツ指導・相談室（専任相談員）
- ・京都大学健康科学センター（非常勤講師・専任相談員）

David Dalsky (准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・Tajino, A., Stewart, T., & Dalsky, D. (Eds.) 2010 Writing for academic purposes: Eisakubun wo sostugyoshite eigoronbun wo kaku. Tokyo: Hitsuji Press.

【論文】

- ・Dalsky, D. 2010 Individuality in Japan and the United States: A cross-cultural priming experiment. International Journal of Intercultural Relations 34, 429–435.
- ・Dalsky, D. 2010 Academic writing in the hybrid classroom. In A. Tajino, T. Stewart, & D. Dalsky (Eds.), Writing for academic purposes: Eisakubun wo sostugyoshite eigoronbun wo kaku. (pp. 201–208). Tokyo: Hitsuji Press.
- ・Dalsky, D. 2010 Researching an academic paper. In A. Tajino, T. Stewart, & D. Dalsky (Eds.), Writing for academic purposes: Eisakubun wo sostugyoshite eigoronbun wo kaku. (pp. 89–112). Tokyo: Hitsuji Press.
- ・Dalsky, D. & Stewart, T. 2010 Citing sources and writing the references section. In A. Tajino, T. Stewart, & D. Dalsky (Eds.), Writing for academic purposes: Eisakubun wo sostugyoshite eigoronbun wo kaku. (pp. 161–173). Tokyo: Hitsuji Press.
- ・Stewart, T., & Dalsky, D. 2010 Writing the body section. In A. Tajino, T. Stewart, & D. Dalsky (Eds.), Writing for academic purposes: Eisakubun wo sostugyoshite eigoronbun wo kaku. (p. 135–149). Tokyo: Hitsuji Press.

2. 教育活動 (2010 年度)

【学内】

- ①全学共通教育:「英語Ⅰ A・B」「英語Ⅱ A・B」(Academic Writing and Reading)
- ②大学院教育: Intercultural Understanding Pedagogy

【学外】

- ・Manuscript reviewer for the International Journal of Intercultural Relations

3. その他の活動

【学内委員】

- ・情報環境機構教育用コンピュータシステム運用委員会

准教授 ティム スチュワート (Tim Stewart)

1. 研究業績 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【著書】

[共著]

- ・Tajino, A., Stewart, T., & Dalsky, D., et al. 2010.04. *Writing for academic purposes: Graduating from composition writing to academic writing* 「英作文を卒業して英語論文を書く」. Tokyo: Hitsuji Press.

[単著]

- ・Stewart, T. 2011.01. *Good point! : Academic speaking and listening skills for beginners*. Tokyo: Macmillan Language House.

【論文】

- ・Stewart, T. 2010.11. Literacy and communication skills in the liquid-modern world. *Language Magazine*, 10 (3) , 24–28.

【その他の著作物】

- ・Stewart, T. 2010.05. Review of David Nunan and Kathleen Bailey, “Exploring Second Language Classroom Research: A Comprehensive Guide,” *JALT Journal*, 32 (1) , 105–108.

【学会発表】

- ・Dellicarpini, M., Stewart, T. et al. 2011.03. “Getting published in TESOL Journal for new writers,” International TESOL convention 2011, New Orleans, USA.

2. 教育活動 (2010 年度)

【学内】

①全学共通教育、②学部教育、③大学院教育

①全学共通教育

英語 IA

英語 IB

英語 IIA

英語 IIB

英語 IIA 単位未修得者クラス

英語 IIB 単位未修得者クラス

CALL (英語 IIAB 単位未修得者クラス) 試験を作る

③大学院教育

外国語教育授業研究論 1・2

【学外】

3. その他の活動 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【学内委員】

- ・2010.1—2010. 5. K.U.PROFILE A 群科目担当教員選考委員
- ・2010.4—2011. 3. 京都大学入試委員会 外国語 (英語) の活動
- ・2010.6—2011. 3. 国際交流委員会委員の活動

【社会活動】

*学会役員、学外委員など

- ・2010.4—2011.3. Editor of the *TESOL Journal* section, Communities of Participation in TESOL

- ・ 2010.4—2011.3. Manuscript reviewer for the JALT publication *The Language Teacher*
- ・ 2010.4—2011.3. Manuscript reviewer for the JALT publication *JALT Journal*

桂山 康司 (准教授)

1. 研究業績

【著書】

[執筆協力]

- ・ 田地野彰、ティム・ステュワート、デビッド・ダルスキー編 2010. 4 『Writing for Academic Purposes—英作文を卒業して英語論文を書く』 ひつじ書房

【論文】

- ・ 桂山康司 2011. 2 「ミルトンと視覚詩—verse paragraph による詩学の一側面」
京都大学大学院人間・環境学研究科英語部会『英文学評論』第83集、31-50頁

【その他の著作物】

- ・ 桂山康司・楠瀬健昭・高橋美穂 (編) 2010. 12 『G. M. ホブキンズ：断片詩集1』日本ホブキンズ協会関西部会 NONDUM 第12号
- ・ Katsurayama, K. 2011. 2 “Milton and Visual Poetry: An Aspect of the Miltonic Verse Paragraph” *MAJ NEWS* (The Milton Association of Japan), vol. 2, pp. 12-3.
- ・ 桂山康司 2011. 3 「外部評価報告書 (3)」『外部評価報告書』神戸大学大学教育推進機構外国語第I (英語) 教育部会、25-29頁

【学会発表】

- ・ 桂山康司 2010. 10 「汝自身を知れ—ミルトンの言語認識と自己認識」日本ミルトン協会第3回研究大会、フェリス学院大学緑園キャンパス

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「英語IA・B」「英語IIA・B」「イギリス詩入門 (ポケット・ゼミ)」
- ②学部教育：「西欧近現代表象文化論IV B」「西欧近現代表象文化論演習IV A・B」(以上、総合人間学部)「英語学 英文学 (講読)」「アメリカ文学 (講読)」(以上、文学部)
- ③大学院教育：「イギリス近現代文化論2B」「西欧文化論演習2B」(以上、人間・環境学研究科、博士前期課程)「共生文明学特別研究I、II」「歴史文化社会論特別セミナー」(以上、人間・環境学研究科、博士後期課程)

【学外】

- ・ 京都府立大学 英語B
- ・ 播磨高等学校 (高大連携プロジェクト)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 全学共通教育システム委員会外国語教育専門委員会委員
- ・ 外国語教育専門委員会英語部会委員
- ・ 建築委員会委員 (人間・環境学研究科)
- ・ 人間・環境学フォーラム実施委員会委員長 (人間・環境学研究科)
- ・ 国立七大学外国語教育連絡協議会

【学外委員】

- ・ 神戸大学外部評価委員

【社会活動】

- ・日本ミルトン協会企画委員
- ・日本ホプキンス協会関西西部会運営委員
- ・京大英文学会アルビオン賞選考委員会委員長 (2009 年度)
- ・岸和田市青少年指導員 (2010–2011 年度)
- ・岸和田市立八木北小学校 PTA 会長 (2010 年度)

【講演】

- ・桂山康司 2011. 3 「大学における英語教育の役割—京大における最近の英語教育改革を例として」神戸大学大学教育機構外部評価 (全学共通教育部外国語第 I 教育部会) シンポジウム、神戸大学瀧川記念学術交流会館

第三部門 (情報メディア教育開発部門)

小山田 耕二 (高等教育研究開発推進機構)

1. 研究業績 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【著書】

[共著]

- ・粒子ボリュームレンダリング—理論とプログラミング, 小山田 耕二, 坂本 尚久 (著), コロナ社, 2010 年 10 月 15 日

【監修】

- ・CUDA 高速 GPU プログラミング入門, 岡田 賢治 (著), 小山田 耕二 (監修), 秀和システム, 2010 年 3 月 25 日 発行

【論文】

(査読付学術雑誌)

- ・Naohisa Sakamoto, Hiroshi Kuwano, Takuma Kawamura, Koji Koyamada, Kazunori Nozaki, “Visualization of Large-scale CFD Simulation Results Using Distributed Particle-Based Volume Rendering”, International Journal of Emerging Multidisciplinary Fluid Sciences, Vol.2, No.2, pp73–86, 2010
- ・Naohisa Sakamoto, Takuma Kawamura, Koji Koyamada, “Improvement of particle-based volume rendering for visualizing irregular volume data sets”, Computers & Graphics, Vol.34, No.1, pp.34–42, 2010
- ・Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “A Level-of-Detail Rendering of a Large-Scale Irregular Volume Dataset Using Particles”, Journal of Computer Science and Technology (JCS&T), Vol.25, No.5, pp905–915, 2010
- ・Satoshi Tanaka, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata, Hideo Nakajima, Takuya Hatta, Frederika Rambu Ngana, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Grid-Independent Metropolis Sampling for Volume Visualization”, Journal of Modeling, Simulation, and Scientific Computing (IJMSSC), Vol 1, No.2, pp119–218, 2010

【その他の著作物】

(解説)

【学会発表】

(査読付国際会議)

- ・Takuma Kawamura, Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto, Satoshi Tanaka, , “A High-Quality Sampling Technique of PBVR for Unstructured Hexahedral Mesh Data,” , IEEE Visualization’ 10 (Poster), 2010
- ・Shiori Yasuoka, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “An Exploration of Multivariate Time-Varying Volume Datasets Using Volumetric Parallel Coordinates”, Proceedings of the 7th EUROSIM Congress on Modelling and Simulation, CD-ROM, 2010, 2010
- ・Naohisa Sakamoto, Takuma Kawamura, Koji Koyamada, “Integration of Semi-transparent Polygons for Sorting-free

Volume Rendering”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2010, pp.5–6, 2010

【全国大会・研究会】

- ・河村 拓馬, 坂本 尚久, 小山田 耕二, “粒子ベースボリュームレンダリング法のための不規則六面体メッシュ向けハイクオリティーサンプリング手法”, 第29回日本シミュレーション学会大会, 2010
- ・西村 純, 河村 拓馬, 矢作日 出樹, 坂本 尚久, 小山田 耕二, “大規模宇宙シミュレーション結果のための対話的可視化手法”, 第29回日本シミュレーション学会大会, 2010

2. 教育活動 (2010 年度)

【学内】

①全学共通教育

- ・研究の世界 A
- ・研究の世界 B
- ・可視化入門

②学部教育

- ・生体医療工学
- ・基礎情報処理

③大学院教育

- ・情報メディア工学特論
- ・計算機科学特論

【学外】

- ・上智大学「ビジュアライゼーション」

3. その他の活動 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進機構執行協議会委員
- ・情報教育専門委員会委員
- ・FD 研究検討委員会委員
- ・大型計算機システム運用委員会委員
- ・全学情報ネットワーク倫理委員会委員

【社会活動】

- ・日本シミュレーション学会会長
- ・可視化情報学会理事・編集委員会委員長
- ・システム制御情報学会理事

【講演】

【その他】

坂本 尚久 (特定助教)

1. 研究業績 (2010 年 4 月～2011 年 3 月)

【著書】

[共著]

- ・粒子ボリュームレンダリング—理論とプログラミング, 小山田 耕二, 坂本 尚久 (著), コロナ社, 2010 年 10 月 15 日

【論文】

(査読付学術雑誌)

- ・ Naohisa Sakamoto, Hiroshi Kuwano, Takuma Kawamura, Koji Koyamada, Kazunori Nozaki, “Visualization of Large-scale CFD Simulation Results Using Distributed Particle-Based Volume Rendering”, International Journal of Emerging Multidisciplinary Fluid Sciences, Vol.2, No.2, pp73–86, 2010
- ・ Naohisa Sakamoto, Takuma Kawamura, Koji Koyamada, “Improvement of particle-based volume rendering for visualizing irregular volume data sets”, Computers & Graphics, Vol.34, No.1, pp.34–42, 2010
- ・ Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “A Level-of-Detail Rendering of a Large-Scale Irregular Volume Dataset Using Particles”, Journal of Computer Science and Technology (JCS&T), Vol.25, No.5, pp905–915, 2010
- ・ Satoshi Tanaka, Kyoko Hasegawa, Susumu Nakata, Hideo Nakajima, Takuya Hatta, Frederika Rambun Ngana, Takuma Kawamura, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “Grid-Independent Metropolis Sampling for Volume Visualization”, Journal of Modeling, Simulation, and Scientific Computing (IJMSSC), Vol.1, No.2, pp119–218, 2010

【その他の著作物】

(解説)

【学会発表】

(査読付国際会議)

- ・ Takuma Kawamura, Koji Koyamada, Naohisa Sakamoto, Satoshi Tanaka, “A High-Quality Sampling Technique of PBVR for Unstructured Hexahedral Mesh Data,” IEEE Visualization’ 10 (Poster), 2010
- ・ Shiori Yasuoka, Naohisa Sakamoto, Koji Koyamada, “An Exploration of Multivariate Time-Varying Volume Datasets Using Volumetric Parallel Coordinates”, Proceedings of the 7th EUROSIM Congress on Modelling and Simulation, CD-ROM, 2010, 2010
- ・ Naohisa Sakamoto, Takuma Kawamura, Koji Koyamada, “Integration of Semi-transparent Polygons for Sorting-free Volume Rendering”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2010, pp.5–6, 2010

【全国大会・研究会】

- ・ 河村 拓馬, 坂本 尚久, 小山田 耕二, “粒子ベースボリウムレンダリング法のための不規則六面体メッシュ向けハイクオリティーサンプリング手法”, 第29回日本シミュレーション学会大会, 2010
- ・ 西村 純, 河村 拓馬, 矢作 日出樹, 坂本 尚久, 小山田 耕二, “大規模宇宙シミュレーション結果のための対話的可視化手法”, 第29回日本シミュレーション学会大会, 2010

2. 教育活動 (2010 年度)

【学内】

①全学共通教育

- ・ 可視化入門